

石卷市立高等学校将来構想策定検討委員会
報告書

平成21年10月

石卷市立高等学校将来構想策定検討委員会

目次

はじめに	1
第1章 将来構想策定の背景とねらい	
第1節 平成15年策定の「基本方針」の見直しの背景と目的	2
第2節 将来構想検討の視点	2
1 生徒の多様化	3
2 中学校卒業生数の減少	3
3 男女共学化の進行	4
4 進路選択状況の変化	4
第2章 石巻市立高等学校の現状と課題	
第1節 教育改革の動向と市立高等学校の取組み	5
第2節 学校施設整備・その他の課題	5
第3章 審議概要	7
第4章 石巻市立高等学校の将来像	
第1節 石巻市立高等学校の在り方	12
第2節 石巻市立高等学校の将来像	14
＜使用用語の説明＞	15
石巻市立高等学校将来構想策定検討委員会委員名簿	16

はじめに

石巻市立高等学校の将来像は、平成15年6月策定の「石巻市立高等学校再編に向けた取組みの基本方針」の中で、「2校閉校、1校新設」構想として打ち出されました。その後、県の動向の推移や本市合併に伴う状況変化などから見直しが必要となり、石巻市教育ビジョン策定委員会で検討されることになりました。平成20年3月策定の「石巻市教育ビジョン」では、生徒数の推移等を考慮しながら再度精査の上、多面的に検討が必要とされています。そのため、平成20年4月に「石巻市立高等学校将来構想策定検討委員会」が新たに設置され、あらためて石巻市立高等学校の方向性について検討し、提言することとなりました。

これまでの10回にわたる委員会での検討の中では、少子化に代表される今日的な問題に即応するため、中学校卒業生数の減少、生徒の価値観の多様化、男女共学化の進行、進路選択状況の変化等の諸状況を考慮し、さまざまな視点から将来の市立高校のあるべき姿について審議をしてまいりました。この間、市内各界、各層の代表である委員の皆様には、忌憚のない御意見をいただき、さらに、広く市民の意見を聴取するため、市内中・高校生徒、保護者、進路指導担当者を対象としたアンケート調査とパブリック・コメントを経て、ここに、2校統合の方向で提言をまとめることができました。

統合にあたり、校名については、2校の伝統や校風などを考慮し、同窓生や市民の皆様の御意見をもとに、新名称とすることを委員会で確認しております。さらに、両校の心を結び付ける象徴を、何かの形とすることも検討していただきたいと考えております。

今後、本提言をもとにした統合の過程で、石巻市立高等学校に新たな息吹が吹き込まれ、生徒が元気よく学び、友と交わり、豊かに成長して学び舎を巣立っていける、魅力ある市立高校として再創設されることを希望してやみません。

結びに、統合の早期実現を切に祈念申し上げますとともに、本提言をまとめるにあたり御協力をいただきました多くの皆様や教育関係の方々に、衷心より御礼申し上げます。

平成21年10月
石巻市立高等学校将来構想策定検討委員会
会 長 大 谷 尚 文

第1章 将来構想策定の背景とねらい

第1節 平成15年策定の「基本方針」の見直しの背景と目的

平成15年6月に、旧石巻市において、石巻市立高等学校の将来構想として「石巻市立高等学校の再編に向けた取組みの基本方針」が策定された。

その概要は、①平成22年に2校を閉校し、男女共学のもとに新たな1校を設置すること。②学級数及び入学定員は、概ね6クラス、入学定員240人規模とすること。③新キャンパスの建設を目指し、当分の間は、1校2キャンパス制による教育活動を続けながら、平成30年を目標に、新キャンパスの建設を目指すというものであった。

しかし、平成17年4月の大合併による行政組織の変革の見通しの中、実現に無理があるとして改善を求める声もあったことを受け、平成18年5月から始まった新市における「石巻市教育ビジョン策定委員会」で検討されることとなった。

こうして、基本方針の見直しは、教育ビジョン策定委員会にゆだねられたが、教育全般の将来像、理想像作りの目的になじまないことや、個別問題を論じる時間的制約もあることから、新たな委員会を設けて検討することになった。特に石巻地区における中学校卒業生の減少傾向や県立高校の男女共学化による女子の入学希望者の減少、2キャンパス制に内在する学校としての一体感を図ることの難しさ、全県一学区制による入学者の減少等の懸念、魅力ある学校づくりの追求等の事情から、あらためて、2校存続、2校統合、2校閉校1校新設、県立高校への移管、石巻専修大学付属高校化、廃校などを多面的に検討するために、「石巻市立高等学校将来構想策定検討委員会」が設置されることとなった。

併せて、先の基本方針が策定された後の平成17年4月に新石巻市が誕生したが、合併後の財政的窮状から基本方針の実現に無理が生じたこともあり、本委員会を設けて再検討することとなったのである。

第2節 将来構想検討の視点

将来構想の検討に際しては、時代の潮流に対応した変革と質的充実への転換という視点が大切である。特に石巻地区においては、少子化による生徒数の減少や男女共学化の影響による入試定員割れが顕著であるため、入試環境の適正化に向けた整備が必要となっている。また、高校生の興味・関心、進路意識等が多様化し、これまでの枠の中では、自分の特性や能力を伸ばしきれない生徒が増加している状況が見られる。

そこで、今回の新たな市立高等学校将来構想の策定に当たり、市民各界、各層の参加のもとで、平成15年6月策定の「基本方針」を生徒数の推移を考慮して再度精査し、高校の統合の可能性や廃校なども含め、改めて以下の4点についての検討を行い、市立高等学校の将来像について考えることとした。

1 生徒の多様化

高校に進学する生徒の割合が99.1%（平成20年度本市）と高い水準で推移する中、近年高校生活への適応が難しい生徒も増える傾向にある。高校進学率がほぼ100%（資料1）となった現在の高校には、さまざまな能力や適性、興味・関心、進路意識をもった生徒が入学しており、このような実情を踏まえ、教育機会や教育システムの多様化、学習内容や学習形態の多様化等が求められている。

資料1 高校進学率の推移（単位：%）

	石巻市	宮城県
平成11年度	97.5	97.2
平成12年度	96.4	97.6
平成13年度	96.8	97.3
平成14年度	98.2	97.5
平成15年度	98.5	98.0
平成16年度	98.5	98.1
平成17年度	97.4	98.4
平成18年度	98.0	98.5
平成19年度	98.1	98.7
平成20年度	99.1	98.6

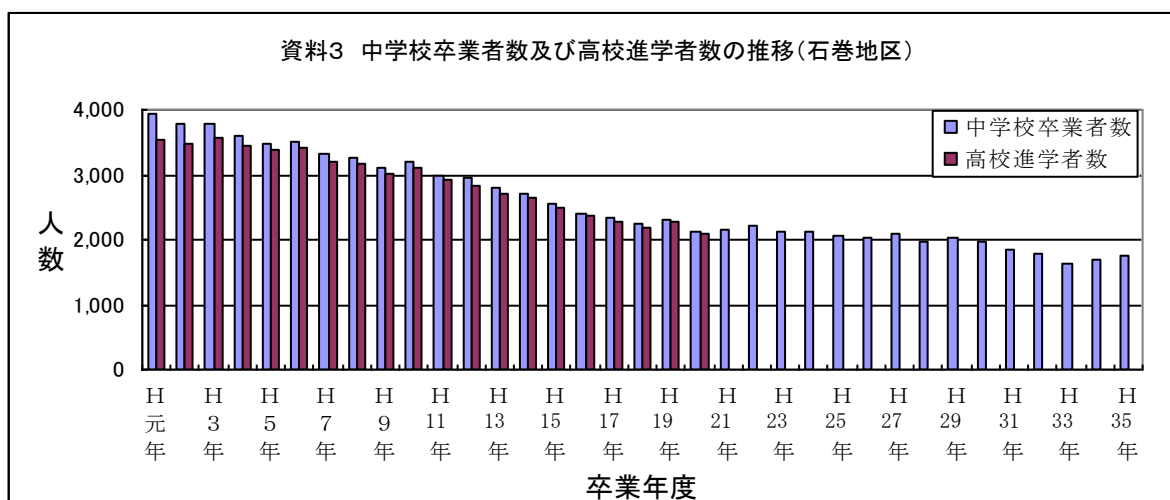
資料2 全国高校進学率（単位：%）

	平成19年度	平成20年度
男性	97.4	97.6
女性	98.0	98.1
計	97.7	97.8

2 中学校卒業生数の減少

本県の中学校卒業生数は、平成元年の35,137人をピークにして減少傾向にあり、平成12年3月には29,601人、平成25年には、平成12年3月の中学校卒業生数のおよそ4分の3程度に減少することが見込まれている。学級数についても、平成12年から平成22年までの間に全県で1学年につき115学級が減るものと予想（平成12年宮城県教育委員会試算）され、県教委は、平成22年度からの10年間で3,184人の中学校卒業生数が減るとの見方を公表し、全県で52学級減らす必要があるとしている。

石巻地区の中学校卒業生数（資料3）も同様の傾向を示しており、平成元年の3,933人から、平成12年3月には2,946人、平成22年には2,213人程度になると見込まれている。さらに石巻地区は、この10年間で494人の中学校卒業生数の減少が見込まれ、学級数にして11学級減少することが予想されており（資料4）、早急な対応が必要になっている。



資料4 地区ごと学級減数(平成23年からの10年間の県教委試算による)

地区名	南部	中部	大崎	栗原	登米	石巻	本吉	全県
学級減数	9	10	6	5	4	11	7	52

3 男女共学化の進行

宮城県はこれまで男女別学の比率が高かったが、今日の男女共同参画社会*の要請もあり、平成22年度からは、県立及び仙台市立高等学校の全てが共学化されることとなった。

石巻地区には、11校の全日制公立高等学校があるが、石巻高等学校、石巻好文館高等学校及び石巻商業高等学校が平成18年度より男女共学化に踏み切った。特に石巻商業高等学校が女子に門戸を開いたことにより、市立女子商業高等学校の入学志願状況に大きな影響を与えている。同校は、平成20年度入試から従来の募集定員を1学級減の160人としたが、平成21年度入試においても34名の定員不足が生じ、事態はますます深刻化しており、募集定数減が迫られている。

4 進路選択状況の変化

平成18年度から始まった石巻地区における県立高校の男女共学化により、新たな課題が発生している。すなわち、同一地区に県立と市立の商業高校が存在し、一方が共学化した影響により、市立女子商業高校に定員割れが生じている。これらの変化は、中学生の進路選択に影響を与えていることは明らかであり、早急な対応が必要になっている。

今、石巻市立高等学校将来構想を再検討するにあたり、何よりも求められる大切な視点は、少子化進行下における市立と県立の枠を超えた役割分担と、存続について冷静に判断することである。

第2章 石巻市立高等学校の現状と課題

第1節 教育改革の動向と市立高等学校の取組み

新しい学習指導要領には、これからの教育の大きな転機となる事柄が盛り込まれている。一つ目は、60年ぶりに改正された教育基本法の理念の反映、二つ目が、これまでの「ゆとり教育」からの転換を含めた授業時数の増加、新たな学力形成として「習得としての教育」と「探求としての教育」の統合を目指している点である。これらの指導要領改訂の趣旨に応じた取組みが早急に行われなければならない。

また、全県一学区制が平成22年度より導入されることに伴い、今後ますます各校の特色化と生徒の多様化・個性化に対応した指導の充実、生徒のニーズに応じた指導が大事になると思われる。かかる意味において、教育行政の在り方とともに、各高等学校の具体的な学校運営が問われ、学校の取組みの裏づけとなる教育目標を含めた学校の在り方と具体的方策が重要になってきている。社会環境の大きな変化とともに、少子化問題を抱えている石巻地区では、価値観の多様化に対応した「魅力ある学校づくり」と総合的な見直しを含めた市立高校の再編の必要性が高まっている。

このような状況の中で、石巻市立高等学校においても、高等学校教育を充実させるため、各校の特性に応じた教育目標のもとに学校運営がなされている。また、国際化・情報化の進展により価値観が多様化する中で、社会の変化と地域の要望や生徒の多様化・個性化に対応した「魅力ある市立高等学校づくり」を進め、市立高等学校の活性化、石巻専修大学などとの連携による教育内容・進路指導・情報教育の充実を目指して取組んでいる。

今後、規制緩和や教育の地方分権化が進む中で、本市においても、市立高校の個性化と「魅力ある高校教育の在り方」、「男女共同参画社会への取組み」、「開かれた学校づくりへの対応」等が課題になると考えられる。

第2節 学校施設整備・その他の課題

本市を取り巻く財政状況については、平成16年度からの三位一体改革^{*}に伴う地方交付税の減少、さらには、市町合併前後の大型建設事業による公債費の高水準化といった、歳入・歳出両面にわたる厳しい環境が継続しており、施設の統廃合等行財政改革を進めざるを得ない状況となっている。

このようなことから、学校も含めた公共施設の新設は極めて困難な状況であり、市立高等学校についても、既存の施設を活用する方向で考えなければならないのが実情である。校舎及び体育館については、耐震診断結果が出ており、市立女子高等学校については校舎の耐震補強が、市立女子商業高等学校については校舎と体育館の耐震補強が必要となっており、市立高等学校将来構想の策定を待って、適時適切な耐震補強改修工事が必要である。

なお、いずれの施設を活用する場合でも、高等学校設置基準に規定されている校舎及び運動場の必要面積は十分に確保される状況にある。

また、現在の市立高等学校は両校とも女子校であるため、男女共学化を考える場合には施設の改修工事が必要となる。

さらには、市立女子商業高等学校の校地については、開校当時より国（宮城北部森林管理署）からの借地となっており、平成20年度から22年度までの3年間を例にとると年間650万円の借地料を支払っている実情である。

第3章 審議概要

第1回	期日：平成20年 8月 8日（水）	場所：石巻中央公民館会議室
<p>はじめに、委嘱状の交付及び会長及び副会長の互選の後、「策定委員会の目的及び経過報告等」について、特に「石巻市教育ビジョン」及び平成15年6月策定の「石巻市立高等学校再編に向けた取組みの基本方針」（以下「平成15年基本方針」という）に関する説明を行った。その中で、①「平成15年基本方針」策定後から石巻市教育ビジョンが策定されるまでの教育委員会としての取組み、「平成22年に2校を閉校し、男女共学のもとに新たな1校を新設すること」に関連して、②2校閉校に向けての具体的取組み、③「平成15年基本方針」策定に際して、市立高等学校の県立移管が困難であった理由、④教育ビジョンで、「市立高等学校の将来像の具現化」の最後に、本将来構想策定検討委員会が立ち上がる理由とされた事情、⑤「平成15年基本方針」で、平成22年2校閉校という提言が棚上げになっている点について質疑が行われた。また、今後の検討に向け、「平成15年基本方針」にある資料のデータ更新等の要請があった。</p> <p>また、少子化に関する資料及び男女共学化の実態等に関する実状説明を行ったが、さらに詳しい資料を要望する声があった。</p> <p>なお、今後の審議内容等に関する意見交換では、次回は、市立高校の現状について資料をもとに理解を深める旨の確認がされた。関連して、委員より現地視察の要請もあったが、今後の検討課題とされた。</p>		
第2回	期日：平成20年10月 8日（水）	場所：石巻市総合体育館会議室
<p>はじめに、市立高校の現状等について資料に基づき説明・質疑が行われた。さらに資料提示要請に基づき、以下について説明を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 石巻市立高等学校の現状と課題（2校分） (2) 中学校卒業生数と高校進学者数（石巻地区） (3) 中学校卒業生の石巻地区と他地区間の転出入の状況 (4) 石巻市立中学校新卒者の進路先状況（平成17～20年3月卒） (5) 平成20年度児童・生徒数（石巻市・東松島市・女川町） (6) 県内高等学校における特殊学科・コースに学ぶ生徒の専門性の活用状況 (7) 石巻地区高等学校の学級数及び定員 (8) 石巻地区における高等学校の状況変化予測 (9) 石巻地区（石巻市・東松島市・女川町）所在の高等学校に関する資料 (10) 石巻地区所在の高等学校に関する資料 <p>これらの内容に関する質疑を通じて、市立高校の現状や今後予測される状況等について共通理解が図られた。関連して、次の2点について資料の要請があった。</p> <p>①少人数学級の状況 ②中高一貫教育の状況</p> <p>また、次回までに「夢を語る」という大きなスケールの中で「市立高校の将来」に関する方向性等について委員の考えをまとめておくよう会長から依頼があった。</p>		

第3回	期日：平成20年12月 3日（水）	場所：石巻市図書館多目的室
<p>第2回会議録の確認の後、委員の資料要請に基づき、次の提示資料の説明と質疑が行われた。</p> <p>①中高一貫教育の状況 ②少人数学級編制の状況について</p> <p>なお、中高一貫教育の実情であるから、長所と短所を踏まえた資料を提示するよう再要請があった。</p> <p>次に、「市立高等学校の将来構想（夢・方向性）」について出席した委員が発表した。①2校閉校、②2校を統合して1校存続、③2校存続の3点から意見が述べられ、併せて「生徒等関係者の意見を聞くべし」等の意見が出された。今回は主に各委員の考えを発表するだけにとどまった。</p> <p>なお、①高校の設置基準が現状に見合っているか、②市の財政上の負担、③公立高校に通う生徒の教育費上の差異等について資料要請があった。</p> <p>市の財政負担に関連して、市立高校の存在が市財政を圧迫しているか否かについて確認と説明が行われた。さらに、中学校における進路指導上の誤情報（募集の停止）についての確認、交付税の交付状況及び市の財政負担の実態について説明の再要請があった。</p>		
第4回	期日：平成21年 2月 9日（月）	場所：石巻市図書館多目的室
<p>第3回会議録の確認後、前回委員会の要請に基づき、次の資料の説明と質疑が行われた。</p> <p>①中高一貫教育の状況 ②公立高校の授業料等の試算 ③校舎・運動場について ④高等学校設置基準 ⑤一般会計の決算状況の推移等</p> <p>特に、「中高一貫教育の状況」については、どのような経緯で要請された資料であるかについて質問が出され、再度説明の結果、理解が得られた。</p> <p>次に、「市立高等学校の将来構想（夢・方向性）」について、前回欠席の4名から意見発表がされた。意見は、前回の①2校閉校、②2校を統合して1校存続、③2校存続の3点のほかに、改めて教育全般にわたる方針を市教委が示すべきであるという趣旨の意見もあった。しかし、委員の中には、既に「石巻市教育ビジョン」でその趣旨が達成されているとの指摘もあり、概ね理解が得られたものと思われる。</p> <p>なお、平成15年6月に策定された「石巻市立高等学校再編に向けた取組みの基本方針」について、何故その決定が棚上げされたかの懸案とされた。</p> <p>次回の検討事項及び内容については、会長が検討して決めることで包括的承認を得た。</p>		

第5回	期日：平成21年 5月11日（月）	場所：石巻市図書館多目的室
<p>はじめに、第4回会議録の確認後、前回委員会の要請に基づき、次の資料①「基本方針」見直しの経緯、②石巻市立高校入試状況（平成17年度～平成21年度）の説明と質疑が行われた。</p> <p>次に、平成20年度の話し合いの結果を踏まえ「市立高校の今後の在り方について」審議を深め、特に今回は、テーマを2校存続に絞り、委員の意見聴取が行なわれた。また、審議の経過の中で、2校を統合する方向性が鮮明になり、次回のテーマとして、「2校統合」に焦点を絞って検討することが確認された。</p> <p>なお、審議の中で、現在県教育委員会が行っている審議会の行方が今後どのように本市将来構想に影響するか、及び教育課程の検討上、法令的しぼりに関する質問があり、資料の必要性が示された。</p> <p>最後に、③アンケート実施計画（案）、④アンケート調査用紙（生徒用）（案）、⑤アンケート調査用紙（保護者・進路指導担当者用）（案）、⑥平成21年度 学校教育課事業年間行事計画（案）、⑦平成21年度 市立高校将来構想策定検討委員会スケジュール（案）の資料をもとに、アンケート調査及び委員会開催スケジュールについて検討し、結果としてアンケートの実施と今後のスケジュール案が確認された。</p>		
第6回	期日：平成21年 6月 1日（月）	場所：石巻市図書館多目的室
<p>第5回会議録については、時間の都合上、次回確認することとした。</p> <p>はじめに、前回の質問に関連し、準備資料に基づき①県立・仙台市立・私立高等学校の動向、②教育課程編成上の法令的しぼり、③高校教育についての意識調査の結果、④アンケート調査結果について、それぞれ説明と質疑が行われた。</p> <p>次に、今回はアンケート調査の結果と資料を参考にしながら、特に、2校統合に焦点を絞って検討が進められた。はじめに会長より、男女共学の問題、教育課程をどうするか、どちらか一方に吸収させるのか、新しい名称の高校にするのかなど具体的な統合の仕方について検討していくことが確認された。特に、男女共学に関する検討が熱心に行われたが、結論には至らなかった。</p> <p>次回は、今回の意見とアンケート結果の資料等を参考にして、2校統合を前提に男女共学か女子校かについて考えをまとめておくように会長から各委員に指示があった。</p> <p>なお、今後の検討の都合上、石巻地区における男女の比率に関する資料及び男女共学に関する資料並びに市立2校の最大収容学級数や施設改修費等の資料要請があった。</p>		

第7回	期日：平成21年 6月24日（水）	場所：石巻市図書館多目的室
<p>はじめに、第5回及び第6回会議録について確認後、前回委員会の要請に基づき、次の資料①石巻地区高等学校入学者男女比率表、②仙台商業高等学校の統合経過について、③仙台市立高等学校のあるべき姿について（答申抄）、④新たな県立高校将来構想「答申（中間案）」（石巻地区に関連する部分の抜粋）、⑤石巻市立高等学校に係る歳出歳入決算状況の推移（市立高等学校2校分）、⑥市立高等学校施設に関する説明と質疑が行われた。</p> <p>次に、第6回委員会の結果を踏まえ「市立高校の今後の在り方について」、特に、2校統合を前提に「男女共学か、女子校か」について審議をしたが、意見がまとまらず、結論は次回へ持ち越しとなった。</p>		
第8回	期日：平成21年 7月 6日（月）	場所：石巻市図書館多目的室
<p>はじめに、前回委員会の内容を提示資料（「第7回委員会の検討内容」）により概観し、その上で前回欠席者から2校統合を前提に「男女共学か、女子校か」について意見を聴取した。（第7回会議録の確認については、次回に行うこととした。）</p> <p>次に、前回委員会で結論が得られなかったことを受け、全委員の了承のもとで会長提案が行われた。その中で、市立2校の統合の在り方として女子校を選択した上でその後の審議を進めたい旨の提案があり、委員の賛同が得られた。続いて、統合の形態について審議が行われ、①生徒の利便性、②学び舎環境等の観点から、市女高に市女商を統合し、市女高校舎を使用することで委員の合意が得られた。</p> <p>次に、教育課程に関する意見聴取が行われたが、前回資料を使用してコース制、類型制、小学科制、総合学科制、単位制等についての説明があり、その後、委員の意見をもとにして、生徒の進路希望や興味・関心、社会の動向に柔軟に対応できるよう、普通科を前提にした①コース制*、②類型制*、③コース制と類型制の併用型を基本として考えることで、意見が一致した。</p> <p>さらに、魅力ある学校づくりに関する審議が行われ、提示資料「仙台市立高等学校のあるべき姿について（答申抄）」をもとにした説明の後、石巻市立高等学校にも参考になる事柄について検討がなされ、各委員から以下の点について配慮されたい旨の提案がなされた。</p> <p>①豊かな人間性を育み、社会の一員として生活していくために必要な能力を身につけさせることはもとより、品格を重んじる教育を目指す必要があること。②入学者選抜方法の工夫や入学後に進路に合った科目履修を可能とする教育課程の編成と実施を工夫する必要があること。③将来的に長期留学を単位に換算する制度を設けるなど、意欲的な生徒が集まる教育課程を工夫する必要があること。④「完成教育」の考え方から上級学校への「接続教育」を考慮した転換を図り、一層の学力向上を目指し、指導法を工夫する必要があること。⑤就業観・勤労観の育成を目的として進路指導の充実を図るとともに、就職を希望する生徒に実践的な経験を積ませるため、地元企業等との連携による取組みを検討する必要があること。⑥男女共学化及び中高一貫教育への取組みについて、今後継続して検討する必要があること。</p> <p>最後に、審議内容を提言の素案として、事務局が次回までにまとめることについて確認</p>		

がなされた。

第9回	期日：平成21年 8月24日（月）	場所：石巻市図書館多目的室
<p>はじめに、第7回及び第8回会議録について確認後、今回の協議事項（1）石巻市立高等学校将来構想策定検討委員会報告書（素案）、（2）意見交換、（3）その他、について検討された。</p> <p>最初に、既に委員宛て送付されている報告書（素案）の変更点等について説明がなされ、本日提案の原案が確認された。その後各章、各節ごとに事務局から説明がなされ、委員から表現の修正等を含め6点ほど意見が述べられた。</p> <p>さらに、平成25年度高校入試より「くくり募集制度」の導入がなされることが県教育委員会の情報で明らかとなり、これを受け、事務局から教育課程に関する内容の変更案が提案され、委員の了承が得られた。なお、この審議をもって報告書（案）をパブリック・コメントに付すことの確認がなされ、今回の審議概要等については事務局に一任することです承された。</p> <p>次に、（2）意見交換の中で、前委員会で要請があった「今年度及び来年度以降のスケジュール」について事務局から説明がなされた。また、（3）その他として、次回のテーマは、最終報告書（案）の確認であることの説明が事務局からなされた。</p> <p>最後に、「4 その他」として、事務局より第10回委員会の日程として、平成21年10月14日（水）案が提案され、了承された。</p>		
第10回	期日：平成21年10月14日（水）	場所：石巻市図書館多目的室
<p>はじめに、第9回会議録について確認後、今回の協議事項（1）石巻市立高等学校将来構想策定検討委員会報告書（最終案）、（2）意見交換、（3）その他、について検討された。</p> <p>最初に、報告書（最終案）の変更点等について説明がなされ、前回懸案の「公私立高等学校の授業料等の試算」等の資料については、諸般の事情から資料に組み入れないことが確認された。また、パブリック・コメントの結果については、原案通り承認された。</p> <p>次に、（2）意見交換の中で、統合の象徴である「乙女の像」の建立に関する意見が求められ、委員からは、施設設備など他に優先すべき事業があるのではないかとの意見が目立ち、乙女の像については、寄付金等により実現の可能性を考えるべきであるとの主張がなされた。</p> <p>最後に、「4 その他」として、第10回委員会の「審議概要」については、事務局に一任することが確認された。</p> <p>なお、報告書については、平成21年10月26日（月）に教育長に提言することが確認された。</p>		

第4章 石巻市立高等学校の将来像

第1節 石巻市立高等学校の在り方

石巻市立高等学校の在り方については、将来構想検討の視点に基づき、各種の審議が行われた。第1に、昨年度からの課題として、①2校存続、②2校閉校、③2校統合について詰めの検討が行われた。ここでは、これらの検討内容を整理して示す。

1 2校存続について

- ①公立高校の入学定員が確保されて入学しやすいため、親の経済的負担の軽減になる。
- ②子どもの通学の利便性に寄与する。
- ③少子化の現状にそぐわない。
- ④市の財政上の負担となる。
- ⑤高校の適正規模の観点から2校存続には無理がある。

2 2校閉校について

- ①市として将来を担う若者を育てる教育の役割から2校閉校は考えるべきでない。
- ②教育の性質上、財政的な理由から2校閉校を考えるべきではない。
- ③少子化という現状といえども、石巻市のためには、「2校とも閉校」はすべきではない。
- ④市の将来性を考えると、人づくりの受け皿として高校を残すべきである。

3 2校統合について

- ①市の将来を考えて意識的に1校は残すべきである。
- ②2校を統合する場合、女子校として残すべきである。
- ③女子生徒の選択肢の一つとして1校は女子校として残すべきである。
- ④男女共学については、県立高校の動向も見ながら導入を検討する時期に来ている。
- ⑤全県一学区制のもとで、女子校は石巻の個性の一つとして価値がある。
- ⑥施設対応上、男女共学の可否も検討して判断する必要がある。

市立高等学校の在り方については、以上のように、①2校存続、②2校閉校、③2校統合のいずれを取るかについて審議をしたが、①については少子化の現状や適正規模の観点から、②については教育施設の保持の観点から、いずれも排除することとし、③の2校統合の方向で検討を進めることとした。

次に「男女共学か、女子校か」を中心に審議が進められた。その内容は次のとおりである。

<女子校賛成理由>

- 1 女子校を2校統合するのであるから、女子校にするのが自然であり、現実的で、これまでの両校の伝統も生かせる。
- 2 県全体が男女共学化する中で、むしろ女子校として存続することが個性となり、意義がある。教育課程の特色化を図れば、なおユニークさが期待できる。現に私立高校は独自の道を歩んでいる。
- 3 共学化すると「女子校」という進路選択肢がなくなるため、成績本位による進路選択を招いてしまう。
- 4 はじめから共学にすると、途中から女子校に戻すことは難しくなる。女子校としてスタートする方が無難である。
- 5 トイレ・部室改修費用等の経費を考慮すると女子校のままでよいのではないかと。

<男女共学賛成理由>

- 1 統合に当たっては女子に特化する必要はなく、男子にも門戸を開くべきである。
- 2 男女共同参画社会にあっては、男女共学が自然である。
- 3 女子校だからといって、成績本位の進路選択を招かないとは限らない。志望校は主に成績で決めているのではないかと。(上の3に対する反論)
- 4 前回及び今回のアンケート結果に見るとおり、男女共学を望む声が大きいため、その希望を生かすべきである。

以上のように、2校統合の在り方については、共学か別学かで議論が分かれた。県立高等学校が一律男女共学化する中、必ずしも女子に特化する必要はなく、男子にも門戸を開くべきであるという意見もあったが、女子校ということ自体が特色であり、独自性が発揮できること、また少子化に伴う高校進学者の減少に対応できるという判断から、次節に示すように、女子校を選択することとした。

第2節 石巻市立高等学校の将来像

これまでの審議を経て、石巻市立高等学校の統合の在り方については、次のとおり基本線を定めることで合意が得られた。

また、具体の学校づくりに関しては、各委員から以下に示すような意見が提示され、統合後の教育課程編成等の参考とすることとした。

＜統合の在り方と形態として＞

- 1 石巻市立女子商業高等学校と石巻市立女子高等学校を統合し、統合後は女子校とする。
- 2 校舎は、通学の利便性や学び舎環境等の観点から、石巻市立女子高等学校校舎を使用する。
- 3 教育課程については、生徒の進路希望や興味・関心、社会の動向に柔軟に対応できるよう、普通科及びその他の学科の設置も視野に入れ、①コース制※、②類型制※、③コース制と類型制の併用型も採用できるようにする。

＜魅力ある学校づくりのために考慮すべき事項として＞

- 1 豊かな人間性を育み、社会の一員として生活していくために必要な能力を身につけさせることはもとより、品格を重んじる教育を目指す必要がある。
- 2 入学者選抜方法の工夫や入学後に進路に合った科目履修を可能とする教育課程の編成と実施を工夫する必要がある。
- 3 将来的に長期留学を単位に換算する制度を設けるなど、意欲的な生徒が集まる教育課程を工夫する必要がある。
- 4 「完成教育」の考え方から上級学校への「接続教育」を考慮した転換を図り、一層の学力向上を目指し、指導法を工夫する必要がある。
- 5 就業観・勤労観の育成を目的として進路指導の充実を図るとともに、就職を希望する生徒に実践的な経験を積ませるため、地元企業等との連携による取組みを検討する必要がある。
- 6 男女共学化及び中高一貫教育への取組みについて、今後継続して検討する必要がある。

<使用用語の説明>

※男女共同参画社会

男性や女性が互いにその人権を尊重し、責任を分かち合いつつ個性と能力を十分に発揮できるような社会のこと。我が国では、平成11年に「男女共同参画社会基本法」を制定し、政府は、具体的な施策を推進するため、平成17年12月に「男女共同参画基本計画」を策定している。

※三位一体改革

2001年に成立した小泉純一郎内閣が推し進めた聖域なき構造改革の一環として取り組まれたもので、日本における国と地方公共団体の行財政システムに関する3つの改革、すなわち①国庫補助負担金の廃止・縮減、②税財源の委譲、③地方交付税の一体的な見直しのこと。

※コース制

普通科またはその他の学科の中に、ある特定の学習分野（情報コース等）を設定し、入学時から定員を限定（例：1クラス40名）して募集するもの。

※類型（制）

普通科またはその他の学科のコースの中に、生徒の進路希望や興味・関心等に応じて、系統的に教科・科目が選択できるよう科目の望ましい配列を校内的に設けたもの。

石巻市立高等学校将来構想策定検討委員会委員名簿（17名）

会 長	石巻専修大学理工学部基礎理学科教授	大 谷 尚 文
副会長	石巻市立万石浦中学校校長	大 和 信 一
委 員	石巻市立女子高等学校同窓会会長	遠藤りき子
〃	石巻市立女子商業高等学校PTA会長	佐藤禎久
〃	石巻市PTA協議会理事	藤井広美
〃	石巻商工会議所会頭	浅野 亨
〃	石巻青年会議所理事長	長峰賢司
〃	石巻市町内会連合会	渡辺 茂
〃	石巻を考える女性の会副会長	田村百合子
〃	河北地域まちづくり委員会	横山和枝
〃	雄勝地域まちづくり委員会	小松 光
〃	河南地域まちづくり委員会	佐藤美佳
〃	桃生地域まちづくり委員会	佐々木以功子
〃	北上地域まちづくり委員会	山内美恵子
〃	牡鹿地域まちづくり委員会	石森義之
〃	一 般 公 募	千葉雅俊
〃	一 般 公 募	平塚由美江

資料編

<資料編目次>

第1 石巻市立高等学校の概要

1 沿革

<石巻市立女子高等学校> 1

<石巻市立女子商業高等学校> 3

2 学校の現状

<石巻市立女子高等学校>

(1) 学級数及び生徒数 4

(2) 通学状況 4

(3) 卒業生の進路状況 4

(4) 総卒業生数 5

(5) 校舎施設設備等概要 6

<石巻市立女子商業高等学校>

(1) 学級数及び生徒数 6

(2) 通学状況 6

(3) 卒業生の進路状況 7

(4) 総卒業生数 7

(5) 校舎施設設備等概要 8

第2 石巻市立高等学校を取り巻く状況

<学校施設整備・その他の課題> 8

<中学校卒業生数と高校進学者数（石巻地区）> 10

<中学校卒業生の石巻地区と他地区間の転出入の状況> 11

<これまでの県立高等学校将来構想に基づく取組状況> 12

<新しい県立高等学校将来構想策定の背景> 16

第3 石巻市立高等学校の将来に関する意向

1 アンケート調査について

<アンケート実施計画> 17

<アンケート調査内容> 18

<アンケート調査回答状況> 20

<アンケート調査結果> 21

2 市民意見聴取（パブリック・コメント）の結果 28

第1 石巻市立高等学校の概要

1 沿革（※両校の資料提供による。）

<石巻市立女子高等学校>

- 大正 7年 3月31日 石巻実業補習学校を石巻小学校に附設する。
- 大正14年 3月31日 石巻実業補習学校廃止。
- 大正14年 4月27日 石巻実業女学校を石巻小学校に併設することを認可される。この日を創立記念日と定める。
- 大正15年 3月22日 第1回卒業式を挙げる（本科46人，専攻科21人）。
- 昭和 9年 5月 1日 校訓を制定する。礼儀・自治・勤勉・質素・温和。
- 昭和10年 4月 1日 校舎を元市役所跡に移転する（旧公民館所在地）。
- 昭和15年10月27日 創立15周年記念式典挙げる
- 昭和19年 3月31日 戦時非常措置により宮城県石巻女子商業学校に転換する件認可さる。
- 昭和19年 4月 6日 宮城県石巻女子商業学校開校式。
- 昭和19年 8月 8日 日和山新校舎に移転する（現在地）。
- 昭和21年 3月12日 日和山新校舎第一期工事落成挙げる。
- 昭和21年 3月31日 宮城県実業女学校廃止となる。
宮城県石巻女子商業学校廃止となる。
宮城県石巻市立高等女学校設立認可される。
- 昭和23年 4月13日 石巻家政高等学校設置認可さる（定員240人）
- 昭和23年 5月 6日 石巻家政高校に昇格記念式挙げる、校歌制定。
- 昭和24年 3月31日 宮城県石巻市立高等女学校廃止となる。
- 昭和24年11月 3日 創立25周年記念式典挙げる。
- 昭和26年 3月31日 生徒定員増加の件認可さる（定員600人）。各学年200人。
- 昭和26年10月13日 増築校舎（8教室）落成式挙げる。
- 昭和27年 9月20日 体育館兼生徒集会室落成式並びに贈呈式挙げる（PTAより市へ）。
- 昭和30年 2月15日 創立30周年記念式並びに増築校舎（4教室）落成式
- 昭和35年 3月29日 普通科設置認可される（定員300人）
- 昭和36年 2月11日 石巻家政高等学校に商業科及び別科併設を認可さる。
- 昭和36年 9月28日 体育館落成式挙げる。
- 昭和37年 4月 1日 校名を石巻市立女子高等学校と改称する。
- 昭和37年 5月16日 校章，校旗を新しく制定する。
- 昭和38年 3月31日 改築鉄筋校舎第一期工事完成（690㎡）3階校舎。
- 昭和40年 1月30日 改築鉄筋校舎第二期工事完成（810㎡）3階校舎。
- 昭和40年 9月21日 創立40周年記念式挙げる。
- 昭和43年 4月 1日 改築鉄筋校舎第三期工事完成（1,563㎡）4階校舎。

昭和44年 3月20日 改築鉄筋校舎第四期工事完成（1,577㎡）4階校舎。

昭和44年 8月25日 プール竣工。

昭和45年 4月17日 鉄筋校舎完成（1,317㎡）4階校舎。

昭和46年 4月30日 校庭整備。

昭和47年 6月20日 校庭整備と創立50周年記念緑化など諸事業開始。

昭和50年 3月31日 緑化事業終了。

昭和50年 9月26日 創立50周年記念式挙行。

昭和58年 2月10日 新体育館落成。

昭和60年10月26日 創立60周年並びに体育館落成記念式典挙行。

昭和62年 2月28日 放送機器更新（同窓会より寄贈）。

昭和62年10月31日 美術室完成（137.7㎡）。

平成 3年 9月 6日 全天候型舗装走路整備工事完了。

平成 4年 3月31日 屋内運動場工事完成（1,922.6㎡）。

平成 5年 7月12日 さくら会館落成記念式典挙行

平成 6年 3月31日 LL教室完成（124.3㎡）。

平成 6年12月22日 弓道場完成（246㎡）。

平成 7年 4月 1日 学科改編普通科3コース制（国際教養コース・人文科学コース・生活教養コース）が施行される。

平成 7年10月12日 創立70周年記念式典挙行。

平成 9年 2月28日 校内放送機器更新。

平成10年 8月25日 校庭整備。

平成12年10月 1日 コンピュータ機器更新（新規41台設置）、校内LAN導入（インターネット接続）。

平成14年11月25日 器具庫兼トレーニング室完成。

平成15年 4月 1日 普通科1学級減 国際教養（1） 人文科学（2） 生活教養（2）。

平成15年11月 4日 桜植樹。

平成16年 3月11日 運動場水銀灯取付及び電柱取替え工事完了。

平成17年 9月 1日 コンピュータ機器更新。

平成17年10月21日 創立80周年記念式典挙行。

平成18年 8月24日 校庭整備。

平成19年 8月10日 校庭整備。

平成19年 8月10日 イントラネット設置

平成21年 8月14日 教室壁面塗装替工事

<石巻市立女子商業高等学校>

昭和32年	3月5日	牡鹿郡渡波町立渡波家政専修学校設立認可
昭和32年	4月15日	開校式並びに入学式を挙行
昭和34年	5月21日	校名変更（石巻市立石巻家政専修学校と改称）
昭和36年	3月31日	石巻市立石巻家政専修学校廃止
昭和36年	4月1日	石巻家政高等学校第二校舎とし商業科設立
昭和37年	4月1日	校名変更（石巻市立女子高等学校と改称）
昭和38年	2月25日	石巻市立女子商業高等学校独立開校認可（1学年3学級）
昭和38年	3月31日	石巻市立女子高等学校第二校舎商業科廃止
昭和38年	4月11日	石巻市立女子商業高等学校開校式並びに第1回入学式挙行
昭和38年	4月30日	開校祝賀会挙行、この日を本校創立記念日と定める。
昭和39年	10月31日	校歌制定（作詞 白鳥省吾 作曲 長津義司）
昭和46年	3月17日	体育館竣工（1,385㎡）
昭和48年	9月27日	グラウンド整地工事完了
昭和49年	8月27日	水泳プール及び付属機械室竣工
昭和52年	4月1日	2学級増募（1学年6学級）
昭和52年	8月26日	校旗制定
昭和58年	3月14日	第1回石巻市議会定例会において「校舎建設に関する請願」採択
昭和60年	6月24日	第2回石巻市議会定例会において「商業科施設設備充実（パーソナルコンピュータ導入について）に関する請願」採択
平成元年	3月20日	新校舎第一期工事完成（2,397,06㎡）
平成2年	3月20日	校訓、校木、校花制定
平成2年	3月28日	新校舎第二期工事完成（1,624,46㎡）
平成3年	3月20日	新校舎第三期工事完成（1,571,45㎡）
平成3年	6月24日	新校舎落成式挙行
平成3年	10月30日	新校舎落成・創立35周年記念式典挙行
平成10年	4月1日	制服制定
平成11年	4月1日	1学級減募（1学年5学級）
平成13年	4月2日	コンピュータ（90台）並びに情報通信ネットワーク環境整備
平成14年	10月8日	学校ホームページ開設
平成18年	11月1日	校内LAN整備
平成19年	8月24日	生徒用パソコン機器更新、教職員用パソコン機器導入
平成19年	10月26日	創立50周年記念式典挙行
平成20年	4月1日	1学級減募（1学年4学級）

2 学校の現状（※両校の資料提供による。）

<石巻市立女子高等学校>

(1) 学級数及び生徒数（平成20年4月1日現在）1学級定員40人

学 年	1年		2年		3年		計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
国際教養 コース	1	36	1	34	1	38	3	108
人文科学 コース	2	79	2	80	2	70	6	229
生活教養 コース	2	82	2	80	2	80	6	242
合 計	5	197	5	194	5	188	15	579

(2) 通学状況（平成20年4月1日現在）

出身中学校

全生徒数579名中、石巻市内の28中学校から513名（88.6%）。このうち、旧石巻市内の11中学校から296名（51.1%）。また、女川町より31名（5.4%）、登米市より12名（2.1%）、遠田郡より18名（3.1%）である。大多数が、石巻市内の中学校出身者、石巻市内以外でもほとんどが近隣の中学校出身者である。

通学方法

JR利用者が297名（51.5%）。徒歩・自転車利用者が226名（39.0%）。バス利用者が32名（5.5%）、乗用車利用者が23名（4.0%）となっている。

(3) 卒業生の進路状況（平成19年度）

			合計		コース別人数					
					国際		人文		生活	
			H18	H19	H18	H19	H18	H19	H18	H19
進学	四年制 大学	国公立	1	0	0	0	1	0	0	0
		私立	13	27	5	6	5	17	3	4
	短期 大学	国公立	1	0	0	0	1	0	0	0
		私立	25	22	7	3	6	8	12	11

	高等看護学校	12	6	2	0	7	5	3	1
進学	准看護学校	6	6	1	2	5	3	0	1
	専門学校	61	58	10	13	21	28	30	17
	予備校など	1	1	1	0	0	0	0	1
就職	石巻管内	33	48	3	8	17	14	13	26
	県内	24	19	5	4	10	7	9	8
	県外	11	7	2	0	3	0	6	7
	公務員	2	0	0	0	0	0	2	0
家事・アルバイト等		3	6	0	1	2	1	1	4
進路未定		4	2	1	2	2	0	1	0
計		197	202	37	39	80	83	80	80

平成19年度卒業生において、4年生大学・短期大学への進学者は49名（24.3%）。医療系も含め専門学校は70名（34.7%）。公務員を含めた就職者は74名（36.6%）。その他予備校1名及び家事従事者を含めた未定者が9名（4.5%）となっている。

例年に比較して、生活コースの就職者が41名（51.3%）と多く、専門学校進学者が減少しているが、この年度に固有の現象である。

全体として各年度のゆらぎが大きく、コース毎の特徴を把握するのは困難である。あえて言えば、大学進学率の5年間平均が、国際コースが31.2%、人文コースが29.2%、生活コースが22.2%であり若干の差がある。

また、就職者の職種においては、平成19年度の場合、事務18名（24.3%）、販売11名（14.9%）、医療福祉13名（17.6%）、サービス18名（24.3%）、製造13名（17.6%）、その他1名（1.4%）となっている。これは、例年に比較して販売が少なめで、製造が非常に多くなっている。

（4）総卒業生数

平成20年3月末卒業生数 17,880名

① 石巻実業補修学校（大正7年～） 196名

研究科40名，1年修業者119名，本科22名，専攻科15名

② 石巻実業女学校（大正14年～） 2,896名

本科1,956名，専攻科940名

③ 石巻市立高等女学校（昭和21年～） 302名

高等女学校66名，併設中学校のみの者236名

④ 石巻家政高等学校（昭和23年～） 2,287名

- ⑤ 石巻市立女子高等学校（昭和37年～） 12,199名
 普通科7,285名, 家政科4,914名

(5) 校舎施設設備等概要

- ① 校地面積 18,423㎡
 ② 校舎面積 6,842㎡
 ③ 体育館 2,069㎡
 ④ 運動場 9,923㎡
 ⑤ さくら会館（アリーナ等） 1,496㎡

<石巻市立女子商業高等学校>

(1) 学級数及び生徒数

石巻市立女子商業高等学校は、平成11年度より学級減を行い、平成14年度から各学年5クラス計15クラスになった。少子化により、さらに平成20年度より学級減を行い、22年度には各学年4クラス計12クラスになる予定である。20年度の学級数・生徒数は次のとおり。

(平成20年4月1日現在)

1 学年		2 学年		3 学年		計	
学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
4	142	5	158	5	147	14	447

(2) 通学状況

平成20年4月1日現在、石巻市内から通学している生徒が最も多く、22中学校から330名が通学しており、全体の74%を占める。次いで、東松島市から79名で18%、牡鹿郡からは22名で5%である。以下、登米市9名、大崎市3名、遠田郡2名、宮城郡1名、塩釜市1名である。

通学方法別にみると、徒歩のみで通学している生徒が最も多く、全体の54%。次いでJR利用者、自転車利用者、バス利用者の順になっている。

(3) 卒業生の進路状況

①平成18年度		(平成19年3月31日現在)				
	職種・学校の種類	管内	県内	仙台	県外	計
就職	事務	27	0	5	0	32
	サービス	10	11	13	3	37
	技術	2	1	0	0	3
	技能	1	1	0	0	2
	製造	9	1	1	0	11
	運輸	3	0	2	0	5
	販売	15	2	7	0	24
	未定	11	0	0	0	11
	計	78	16	28	3	125
進学	大学	3	0	3	2	8
	短期大学	0	1	3	0	4
	各種・専門学校	0	3	24	2	29
	高看・准看学校	1	1	0	4	6
	未定	0	0	0	0	0
	計	4	5	30	8	47
就職進学	看護・美容等	3	1	3	0	7

②平成19年度		(平成20年3月31日現在)				
	職種・学校の種類	管内	県内	仙台	県外	計
就職	事務	25	0	3	1	29
	サービス	14	4	8	6	32
	技術	0	0	0	0	0
	技能	3	0	0	0	3
	製造	4	1	0	1	6
	運輸	0	3	0	0	3
	販売	9	4	5	8	26
	未定	16	0	0	0	16
	計	71	12	16	16	115
進学	大学	4	0	10	1	15
	短期大学	0	5	4	4	13
	各種・専門学校	0	2	26	0	28
	高看・准看学校	1	6	0	4	11
	未定	1	0	0	0	1
	計	6	13	40	9	68
就職進学	看護・美容等	4	0	0	1	5

- (4) 総卒業生数 9,994名
- ①渡波家政専修学校(昭和33年度～) 94名
 - ②石巻家政高等学校(別科)時代(昭和36年度) 66名
 - ③石巻市立女子高等学校(商業科)時代(昭和37年度) 27名
 - ④石巻市立女子商業高等学校(昭和38年度～平成19年度) 9,807名

(5) 校舎施設設備等概要

① 校地面積	29,332 m ²
② 校舎面積	8,530 m ²
③ 体育館	1,446 m ²
④ 運動場	13,327 m ²

第2 石巻市立高等学校を取り巻く状況

<学校施設整備・その他の課題>

1 現有面積

区 分	市立女子高等学校	市立女子商業高等学校
校地面積	18,423 m ²	29,332 m ²
運動場面積	9,923 m ²	13,327 m ²
校舎床面積	6,842 m ²	8,530 m ²

2 高等学校設置基準に基づく各種基準（抜粋）

(1) 校舎の面積（第13条）

収容定員	面積（m ² ）
120人以下	1,200
121人以上480人以下	1,200 + 6 × (収容定員 - 120)
481人以上	3,360 + 4 × (収容定員 - 480)

(2) 運動場の面積（第14条）

運動場の面積は、全日制の課程若しくは定時制の課程の別又は収容定員にかかわらず、8,400 m²以上。ただし、体育館等の屋内運動施設を備えている場合その他の教育上支障がない場合は、この限りでない。

(3) その他の施設（第16条）

高等学校には、校舎及び運動場のほか、体育館を備えるものとする。ただし、地域の実情その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。

3 建物毎の耐震診断結果

市立女子高等学校			
建物区分	建築年度・面積	Is 値	耐震補強の必要性
校舎 (7棟)	S37～S44・ 5,858 m ²	0.35～0.41	有
校舎 (5棟)	S62～H14・ 984 m ²	新耐震基準	無
校舎計 12棟	6,842 m ²		
体育館 3棟	S56～H4・ 2,069 m ²	新耐震基準	無

市立女子商業高等学校			
建物区分	建築年度・面積	Is 値	耐震補強の必要性
校舎 (4棟)	S42～S54・ 2,987 m ²	0.34～0.48	有
校舎 (1棟)	S52 ・ 690 m ²	0.82	無
校舎 (13棟)	S59～H10・ 4,813 m ²	新耐震基準	無
校舎 (1棟)	S54 ・ 40 m ²	耐診対象外	無
校舎計 19棟	8,530 m ²		
体育館 (3棟)	S45 ・ 1,427 m ²	0.44	有
体育館 (1棟)	S58 ・ 19 m ²	新耐震基準	無
体育館 4棟	1,446 m ²		

4 校地借地料 (市立女子商業高等学校)

(単位：円)

期 間	平成14～16年度	平成17～19年度	平成20～22年度
借地料 (年額)	9,603,500	7,682,800	6,502,400

5 男女共学化に対応するための改修費用 (参考)

項 目	学 校	
	A 高等学校 (6クラス)	B 高等学校 (5クラス)
トイレ増改築費	39,685,000円	50,000,000円
部室増改築費	52,320,000円	20,000,000円
合 計	92,005,000円	70,000,000円

< 中学校卒業者と高校進学者数（石巻地区） >（※石巻市教育委員会調査による。）

（単位：人）

年次	中学校 卒業生数	高校 進学者数	平成20年 在籍学年	年次	中学校 卒業生数	高校 進学者数	平成20年 在籍学年
平成6年	3,518	3,409		平成21年	2,149		中学3年
平成7年	3,312	3,213		平成22年	2,213		中学2年
平成8年	3,253	3,161		平成23年	2,130		中学1年
平成9年	3,114	3,022		平成24年	2,115		小学6年
平成10年	3,201	3,107		平成25年	2,052		小学5年
平成11年	2,984	2,908		平成26年	2,035		小学4年
平成12年	2,946	2,839		平成27年	2,106		小学3年
平成13年	2,790	2,701		平成28年	1,982		小学2年
平成14年	2,701	2,653		平成29年	2,025		小学1年
平成15年	2,540	2,501		平成30年	1,961		6歳児
平成16年	2,414	2,378		平成31年	1,843		5歳児
平成17年	2,347	2,287		平成32年	1,782		4歳児
平成18年	2,232	2,187	高校3年	平成33年	1,632		3歳児
平成19年	2,322	2,277	高校2年	平成34年	1,683		2歳児
平成20年	2,114	2,094	高校1年	平成35年	1,744		1歳児

平成14年3月に2,701人を数えた石巻地区の中学校卒業生数は、漸減傾向で推移し、平成21年3月には、552人の減少となり、2,149人となっている。

今後の動向についても、我が国の社会全体の少子化現象と歩調を合わせながら推移し、13年後の平成34年には、現在から466人もその数を減らし、1,683人となることが推測される。この減少数は、現行の高等学校のほぼ1校分に匹敵する。

<中学校卒業者の石巻地区と他地区間の転出入の状況> (※石巻市教育委員会調査による。)

1 石巻地区・飯野川地区から他地区への進学者数(平成16年3月卒業から5ヵ年)

	平成16年 4月入学			平成17年 4月入学			平成18年 4月入学			平成19年 4月入学			平成20年 4月入学		
	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計
地区															
県外	3	13	16	6	7	13	2	10	12	3	7	10	3	5	8
南部	8	0	8	10	0	10	3	2	5	1	0	1	5	0	5
中部南	16	49	65	11	40	51	21	34	55	7	33	40	17	38	55
中部北	82	102	184	64	95	159	63	78	141	54	125	179	59	63	122
北部	69	24	93	85	28	113	77	17	94	68	22	90	63	13	76
本吉(学区)	1	3	4	1	5	6	1	1	2	1	2	3	2	1	3
計	179	191	370	177	175	352	167	142	309	134	189	323	149	120	269

※下表に基づき集計している。

地区	学区	高 校 名
南部	刈田・柴田	白石・白石女・蔵王・白石工・村田・柴田農林(川崎校を含む)・大河原商・柴田
	伊具	角田・伊具
中部南	亘理・名取	名取・名取北・亘理・宮城農
	仙台南	仙台北一・宮二女・宮三女・仙台南一・仙台南二・仙台南三・仙台南四・仙台南五・仙台南六・仙台南七・仙台南八・仙台南九・仙台南十・仙台南十一・仙台南十二・仙台南十三・仙台南十四・仙台南十五・仙台南十六・仙台南十七・仙台南十八・仙台南十九・仙台南二十・仙台南二十一・仙台南二十二・仙台南二十三・仙台南二十四・仙台南二十五・仙台南二十六・仙台南二十七・仙台南二十八・仙台南二十九・仙台南三十・仙台南三十一・仙台南三十二・仙台南三十三・仙台南三十四・仙台南三十五・仙台南三十六・仙台南三十七・仙台南三十八・仙台南三十九・仙台南四十・仙台南四十一・仙台南四十二・仙台南四十三・仙台南四十四・仙台南四十五・仙台南四十六・仙台南四十七・仙台南四十八・仙台南四十九・仙台南五十
中部北	仙台北	仙台北一・仙台北二・仙台北三・仙台北四・仙台北五・仙台北六・仙台北七・仙台北八・仙台北九・仙台北十・仙台北十一・仙台北十二・仙台北十三・仙台北十四・仙台北十五・仙台北十六・仙台北十七・仙台北十八・仙台北十九・仙台北二十・仙台北二十一・仙台北二十二・仙台北二十三・仙台北二十四・仙台北二十五・仙台北二十六・仙台北二十七・仙台北二十八・仙台北二十九・仙台北三十・仙台北三十一・仙台北三十二・仙台北三十三・仙台北三十四・仙台北三十五・仙台北三十六・仙台北三十七・仙台北三十八・仙台北三十九・仙台北四十・仙台北四十一・仙台北四十二・仙台北四十三・仙台北四十四・仙台北四十五・仙台北四十六・仙台北四十七・仙台北四十八・仙台北四十九・仙台北五十
	塩釜・黒川	塩釜・塩釜女・多賀城・貞山・松島・利府・黒川・富谷
北部	大崎・遠田	古川・古川黎明・岩出山・中新田・松山・加美農・古川工・鹿島台商・田尻さくら(田尻)・小牛田農林・南郷
	登米・栗原	佐沼・登米・上沼・米山・米谷工・築館・岩ヶ崎・迫桜・鶯沢工・一迫商
東部	石巻・飯野川(石巻地区)	石巻・石巻好文館・石巻西・女川・河南・宮城水産・石巻工・石巻商・石巻市立女・石巻市立女商・東松島(矢本)
		飯野川(十三浜校を含む) ※この地区を上記に混入しないでください。
	本吉	気仙沼・気仙沼西・志津川・本吉響・気仙沼向洋

平成20年度における石巻地区・飯野川地区から他地区への進学者数(転出者数)は、公立149名、私立120名、計269名である。

2 他地区から入学した生徒数（平成16年4月～5ヵ年）

（単位：人）

地区名	平成16年 4月入学		平成17年 4月入学		平成18年 4月入学		平成19年 4月入学		平成20年 4月入学	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
男女										
県外	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1
南部	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0
中部南	1	1	1	4	3	0	1	1	3	0
中部北	7	2	9	7	10	21	15	8	15	6
北部	30	33	35	39	39	51	23	50	20	43
本吉(学区)	7	3	6	13	1	3	6	6	2	6
計	48	39	51	63	54	75	46	65	42	56

他地区から石巻地区に入学した生徒数は、平成20年度で男子42名、女子56名の計98名である。

3 年度別転出入数

	平成16年 3月卒	平成17年 3月卒	平成18年 3月卒	平成19年 3月卒	平成20年 3月卒
転出数	370	352	309	323	269
転入数	87	114	129	111	98
差引数	283	238	180	212	171

以上の調査から、石巻地区への転入数よりも他地区への転出数が上回っており、ここ5年間の平均で毎年約200名の差引転出があることが分かる。

また、公立高校における3%枠の出願制度については、石巻地区から転出する生徒数は10人弱であり、転入者もごく少数である。

<これまでの県立高等学校将来構想に基づく取組状況>

（※平成13年度策定県立高校将来構想抜粋）

平成13年3月の県立高校将来構想では、本県の高校教育が抱える諸課題を見据え、平成13年度から平成22年度までの10年間における改革の方向性及び高校の整備・改編の基本方針に基づく具体的取組が行われてきた。

（1）「多様な個性や特性に対応した魅力づくりの推進」

1) 特色ある学科の設置について

- ①総合学科の設置
- ②単位制高校の設置
- ③専門学科の設置及び改編

- 2) 全日制高校の充実
- 3) 定時制高校及び通信制高校の充実
- 4) 中高一貫教育及び中高連携の推進
- 5) 多様な個性や特性に対応した教育の推進
 - ①授業内容・方法の充実
 - ②特別活動等の充実
 - ③部活動の在り方の検討
 - ④教育相談機能の充実
 - ⑤進路指導の充実

(2) 生徒数の減少に対応した学級減及び学校再編

1) 全日制高校の適正配置

①生徒数減少への対応方針

県内中学校卒業生数は、平成元年をピークに減少傾向にあり、平成25年には、平成12年度の4分の3程度に減ることが予想された。この状況に学級減で対処してきたが中部地区以外の高校の小規模化を招くために、再編策も合わせて進めてきている。

<基本的対応方針>

ア 各地区の年度ごと入学者数、生徒・保護者のニーズ、学科のバランス等を勘案して学級減をする。

イ 極端な生徒数の減少は、活力のある教育活動を困難にすることから、再編することで規模の確保を図る。

ウ 活力ある多様な教育活動やきめ細かな学校運営の展開を考え、望ましい学校規模を1学年6学級(240名)程度と考えている。

※ 学年1～2学級(1学年40名～80名)規模校を原則再編する。

②適正配置の方針

県は、少子化に対応するため、平成12年からの10年間に1学年115学級程度の学級減が必要であると考えた。しかし、県全体で同一基準によると地区によっては学校の小規模化を招くことから、適正な配置による再編計画を進めることとした。(各地区に1学校6学級規模程度の学校と6学級未満程度の学校とをバランスよく配置する考え方で進める。)

③前期計画による再編(平成13年度～平成17年度)

仙南地区：角田高・角田女子高の統合

(角田女子高は平成15年度から1学級減)

栗原地区：栗原農業高・若柳高を統合⇒迫桜高(平成13年度)

築館高・築館高瀬峰校・築館女子高を統合⇒築館高

(築館高・築館女子高は平成15年度から1学級減)

石巻地区：矢本高（全日制・定時制）・石巻高（定時制）・石巻女子高
（定時制）を統合⇒東松島高（平成17年度）

気仙沼地区：気仙沼高・鼎が浦高を統合⇒気仙沼高
（気仙沼高平成15年度から1学級減）

④後期計画による再編（平成18年度～平成22年度）

【本校の再編基準】

平成17年度以降において、2年間連続して、全学年の在籍生徒数が収容定員の3分の2未満であり、かつ160人に満たない場合。

※在籍生徒数は、学校基本調査における各年5月1日現在の数とする。

なお、再編にあたり、地理的条件、学校の歴史・伝統を勘案し、募集停止となった高校の「引継校」を決定し、卒業生の指導要録を引き継ぐほか、卒業証明書等の発行に対応して行くものとする。

当該再編基準による適用校⇒飯野川高（平成20年度から募集停止）

「県立高校の後期の再編について」（平成16年3月策定）に抵触

【分校の再編基準】

a 平成17年度以降において、2年間連続して、全学年の在籍生徒数が収容定員の3分の2未満であり、かつ80人に満たない場合。

b 平成17年度以降において、2年間連続して、分校所在地の中学校からの入学者数が、当該中学校卒業生数の4分の1未満である場合。

※ 在籍生徒数は、学校基本調査における各年5月1日現在の数とする。

※ 県農業高校秋保校における分校所在地とは、旧秋保町の区域とする。

※ 柴田農林高校川崎校及び黒川高校大郷校における分校所在地は、平成15年4月時点の川崎町及び大郷町の区域とする。

※ 当該中学校卒業生数は、当該中学校の卒業生数のうち、全日制高等学校へ進学した生徒数とする。

なお、再編にあたり、地理的条件、学校の歴史・伝統を勘案し、募集停止となった高校の「引継校」を決定し、卒業生の指導要録を引き継ぐほか、卒業証明書等の発行に対応して行くものとする。

当該再編基準による適用校⇒黒川高大郷校（平成21年3月閉校）

宮農高秋保校（平成21年3月閉校）

※「県立高校の後期の再編について」（平成16年3月策定）に抵触

2) 定時制高校・通信制高校の適正配置

前期計画（平成13年度～平成17年度）

矢本高（全日制・定時制）	
石巻高（定時制）	統合
石巻女子高（定時制）	

⇒ 東松島高（平成17年度）

3) 昼夜間開講型単位制高校の設置

田尻高（全日制）⇒田尻さくら高（定時制）（平成20年度）

(3) 開かれた学校づくりの推進（実施項目）

- ①学校評議員制度の導入（平成12年4月から県立高校において）
- ②学校の自己採点・自己評価システムの導入
- ③生徒による授業評価の充実
- ④学校自由見学日の設定
- ⑤学校施設の開放
- ⑥社会人の授業聴講制度
- ⑦高校間の単位互換制度の導入
- ⑧他の教育機関との人材交流
- ⑨インターネット等を活用した学校情報の発信

(4) 男女共学の推進（次の①から③の理由で男女共学化が望ましいとしている。）

- ①高校生という多感な時期に男女が共に学び理解し成長し合う場を日常的に設けることが教育環境として望ましいこと。
- ②社会の在り方の反映である学校においては、男女が共に学ぶ方が自然であること。
- ③県民の負担で設置されている県立高校においては、性差による入学制限を設けることは好ましくないこと。

《男女共学化の推進についての基本方針》

男女共学校については、校舎の改築や学科改編、再編などを機に、対象校ごとに関係者の理解を得ながら、全て男女共学化を推進する。

<平成17年実施>

角田高、角田女子高、築館高、築館女子高、気仙沼高、鼎が浦高、矢本高
古川高、古川女子高

<平成18年実施> 石巻高、石巻好文館高、石巻商業高

<平成19年実施> 仙台第二高

<平成20年実施> 第一女子高

<平成21年実施> 仙台第三高

<平成22年実施>

仙台第一高、第二女子高、第三女子高、白石高、白石女子高、塩釜高、塩釜女子高

＜新しい県立高等学校将来構想策定の背景＞

(※県立高等学校将来構想審議会に諮問する理由書より引用)

本県では、平成22年度までを計画期間とする「県立高校将来構想」を平成13年3月に策定し、生徒の多様な個性や特性に対応した魅力ある高校づくりや開かれた学校づくりの推進、生徒数の減少に対応した学級減や学校再編、そして男女共学化の推進を図るなどして高校教育改革に取り組んでいるところです。

こうした中で、本県における総人口は、平成16年を境に減少に転じ、予想を上回る早さで人口減少時代を迎えています。また、グローバル化、情報化の中で、地域社会における経済環境や生活環境が大きく変化しています。さらに、市町村合併の進展により、地域の有り様も大きく変わりつつあり、今後、地域経済のグローバル化の進展、地方分権の動きへの対応など、これまで以上に変化の激しい時代が到来することが予想されています。

このような社会情勢の変化は、人づくりを担う教育の在り方にも大きな影響を及ぼしています。特に高校教育においては、一人一人の生徒が、社会の形成者として、社会環境の変化に柔軟に対応できる資質や能力を育てていくことがますます重要になっています。また、生徒の興味、関心の多様化に対応しながら、個人の能力を伸長し、自立した人間を育てていくことのできる、時代に即した高校教育の在り方が求められています。

こうしたことから、これからの宮城の地域社会を支えていく意欲や創造性等に富んだ人づくりに向けて、県立高校教育が果たすべき役割、期待される高校教育を踏まえた今後の県立高校の配置を含めた在り方などに関して多角的な見地から調査審議いただき、総合的かつ基本的な構想の策定について諮問するものです。

第3 石巻市立高等学校の将来に関する意向

1 アンケート調査について

<アンケート実施計画>

1 アンケート調査の対象

(1) 生徒：中学3年生及び高校1年生

対象校：石巻中・住吉中・蛇田中・渡波中・河北中・河南西中・雄勝中
市女高・市女商

※中学生は各校とも1クラス、高校生は各校とも2クラス調査する。

(2) 保護者：対象生徒（中学3年生）の保護者

対象校：石巻中・住吉中・蛇田中・渡波中・河北中・河南西中・雄勝中

(3) 進路指導担当者

対象校：石巻中・住吉中・蛇田中・渡波中・河北中・河南西中・雄勝中
市女高・市女商

2 サンプル数（750名）

(1) 生徒数：石巻中・住吉中・蛇田中・渡波中・河北中・河南西中・雄勝中・市女高・市女商
(458名) (37) (36) (36) (36) (28) (35) (37) (39) (32)
(39) (32)
(39) (32)

(2) 保護者：石巻中・住吉中・蛇田中・渡波中・河北中・河南西中・雄勝中
(245名) (37) (36) (36) (36) (28) (35) (37)

(3) 進路指導担当者(47名)

3 時期等

(1) 実施時期：平成21年5月12日（火）～平成21年5月22日（金）

(2) 集計用紙回収期限：平成21年5月26日（火）

(3) 全体集計期間：平成21年5月27日（水）～平成21年5月29日（金）

<アンケート調査内容>

生徒用の質問項目のうち、1の(2)以外は、保護者及び進路指導担当者にも同様のアンケートを実施している。

<生徒用アンケート用紙>

中学生・高校生の皆さんにおたずねします。

1 これからの高校教育についておたずねします。

中学校卒業者のほとんどが高校に進学しています。石巻市では、これからの時代に対応した魅力ある学校づくりを検討するため、皆さんからご意見をお聞きし、今後の参考にさせていただきます。

(1) 高校を選択するとき、大切だと思うことを次の中から2つ選んでください。

- ①校風・伝統
- ②高校卒業後の進路目標(大学進学・就職等)が達成できるかどうか
- ③授業料等の学費、通学方法、通学時間
- ④部活動が可能かどうか
- ⑤成績等で合格可能かどうか
- ⑥男女共学か男女別学か
- ⑦友人と一緒に入るかどうか
- ⑧その他()

(2) 生徒の皆さんが魅力ある高校生活を送るために、どのような科があればよいと思いますか。1つ選んでください。

- ①福祉・ボランティア等の学習ができる科
- ②情報・国際等の学習ができる科
- ③学びたい科目を選択できる総合学科
- ④これまでにある科のままでよい
- ⑤その他()

2 生徒数の減少への対応についておたずねします。

県内の中学校卒業生数は、平成元年の35,137人を最高に年々減少傾向にあり、平成34年には、約半数に近い19,348人にまで減少すると予想されています。石巻管内でも平成34年には、現在の高等学校数を前提に考えると、3校程度の入学生に空きが出るのが予想されています。

(1) これからの市立高校は、どうあればよいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

- ①市立高校を現在のまま残すべきである
- ②市立高校はなくしてよい
- ③市立高校を統合すべきである

- ④市立の枠にとられないで考えるべきである
- ⑤その他 ()

3 高校の男女共学化についてお聞きします。

【男女共学の状況 (全日制の公立高校について)】

平成22年度より石巻市立高等学校を除く県内全日制公立高校が男女共学となります。

(1) 男女共学化についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

- ①賛成
- ②どちらかという賛成
- ③共学・別学どちらでもよい
- ④どちらかという反対
- ⑤反対

(注) ①または②を選んだ方は、(2)へ、③を選んだ方は、(4)へ、

④または⑤を選んだ方は、(3)へ進んで回答して下さい。

(2) 男女共学に賛成する理由を次の中から1つ選んでください。

- ①男女が一緒に学ぶことは、「男性・女性の性にとられることなく、個々の能力や個性を發揮できる社会の実現」のために必要だと思う
- ②男女が一緒に学ぶ方が、「より自然である」と思う
- ③男女が一緒に学ぶ方が、「男性・女性の役割・特性」を自覚できると思う
- ④その他 ()

(3) 男女共学に反対する理由を次の中から1つ選んでください。

- ①「従来の男女別学」にはそれぞれ魅力があり、変えない方がいいと思う
- ②「異性の目を意識することなく学業に専念する時期」を持つことが重要であると思う
- ③「男性・女性の役割・特性」はおのずと異なり、その育成のためには男女別に学ぶ方が効果的であると思う
- ④その他 ()

(4) 「共学・別学どちらでもよい」と答えた理由を次の中から1つ選んでください。

- ①共学校と別学校があってもよいと思う
- ②共学校の中に、男子のみ・女子のみの科(またはコース)があってもよいと思う
- ③その他 ()

<アンケート調査回収状況>

この調査は、石巻市立高等学校の将来構想を具体的に検討するための実態調査及び現状理解を目的として実施したものである。調査対象は、市立高等学校生徒をはじめ、中学生男女及び当該保護者並びに進路指導担当者とし、さらにその回答を男女別に分けて集計し、将来構想の基礎資料とするため、平成21年5月12日から5月22日までの期間で実施し、協力を得たものである。(回答者は、全部で688名で、その内訳は、下表・図に示すとおりである。)

生徒及びその保護者並びに進路指導担当者の回答状況

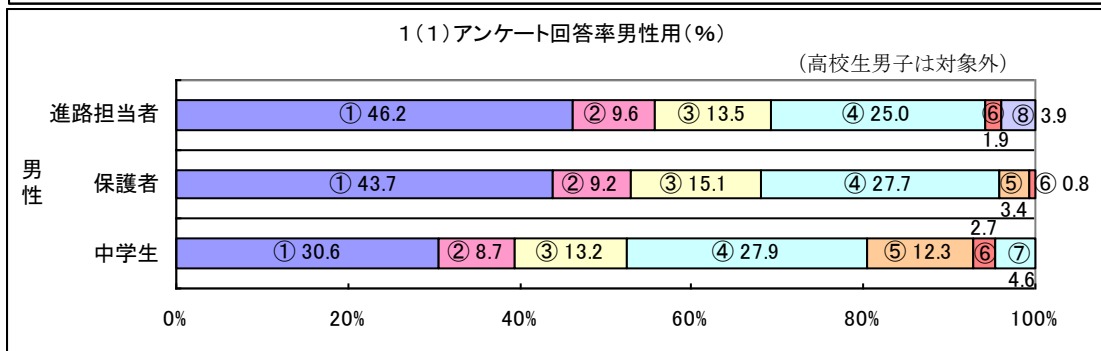
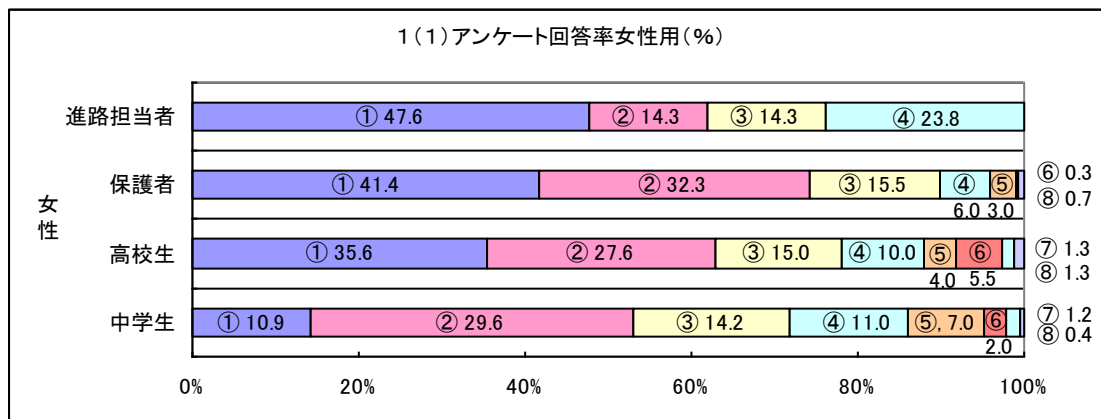
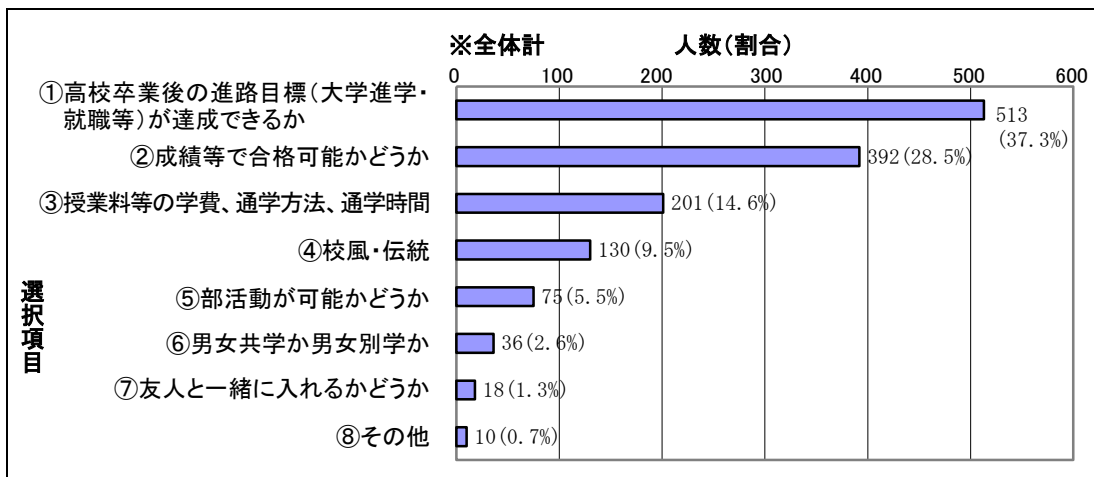
	中学生	高校生	保護者	進路指導担当者	全 体
サンプル数	245名	213名	245名	47名	750名
回 収 数	234名	196名	211名	47名	688名
回 収 率	95.5%	92.0%	86.1%	100%	91.7%

<アンケート調査結果>

次に示すアンケート調査結果のうち、生徒対象の1（2）（生徒の魅力ある高校生活を送るために、どのような科があればよいと思いますか）の質問項目を除けば、全て生徒・保護者・進路指導担当者の回答を基に集計した全体集計である。

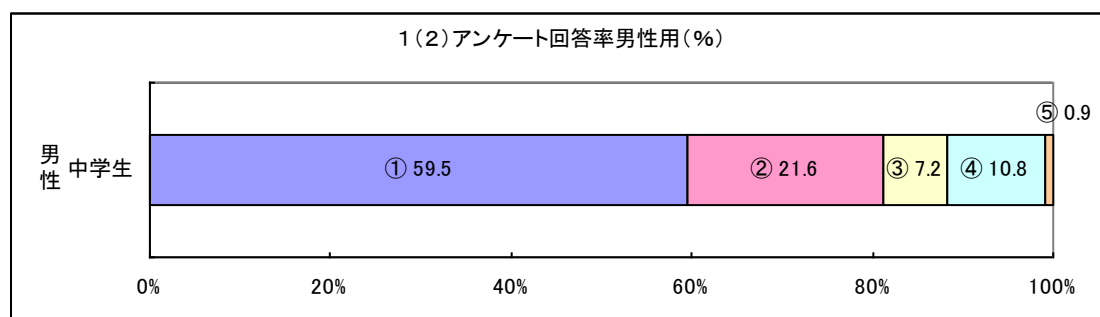
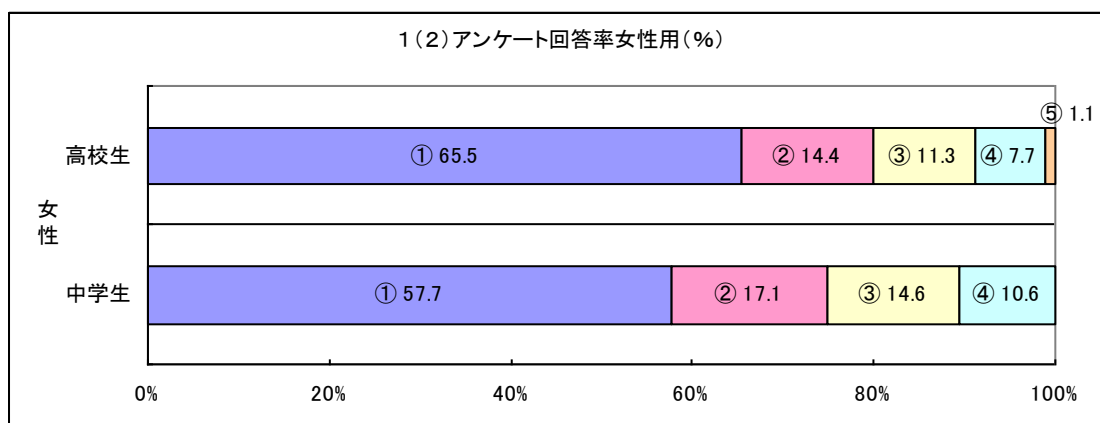
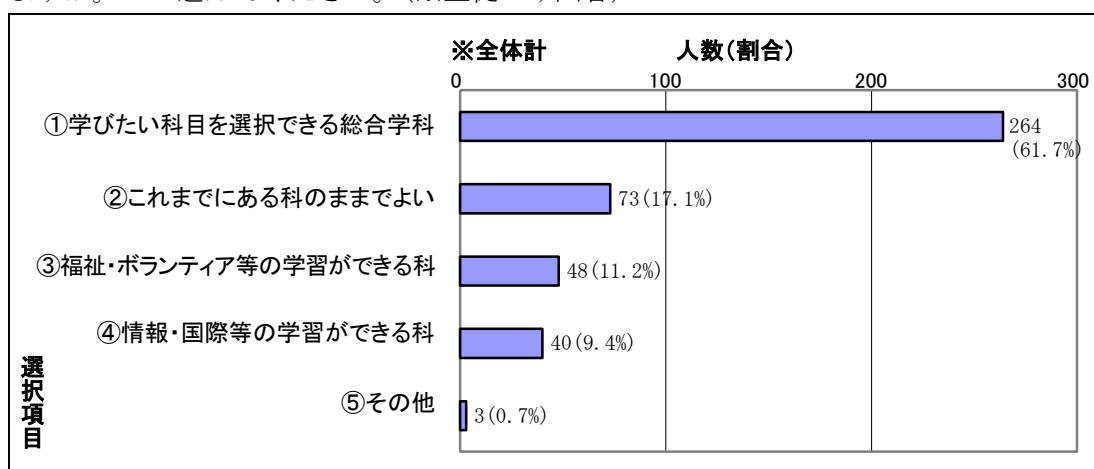
1 これからの高校教育についておたずねします。

（1）高校を選択するときに、大切だと思うことを次の中から2つ選んでください。



○ 高校を選択する際に大切だと思うことを二つ選択する質問に対して、第1位は、「①高校卒業後の進路目標が達成できるか」で全体の37.3%が回答している。また、「②成績等で合格可能かどうか」が28.5%を占め、併せて全体の6割にのぼることが分かる。(なお、ゼロの値とその項目は、表示しないものとする。)

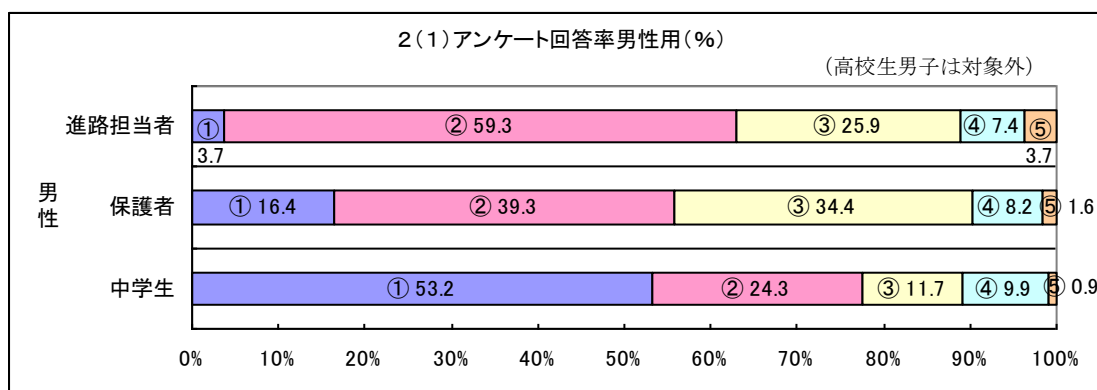
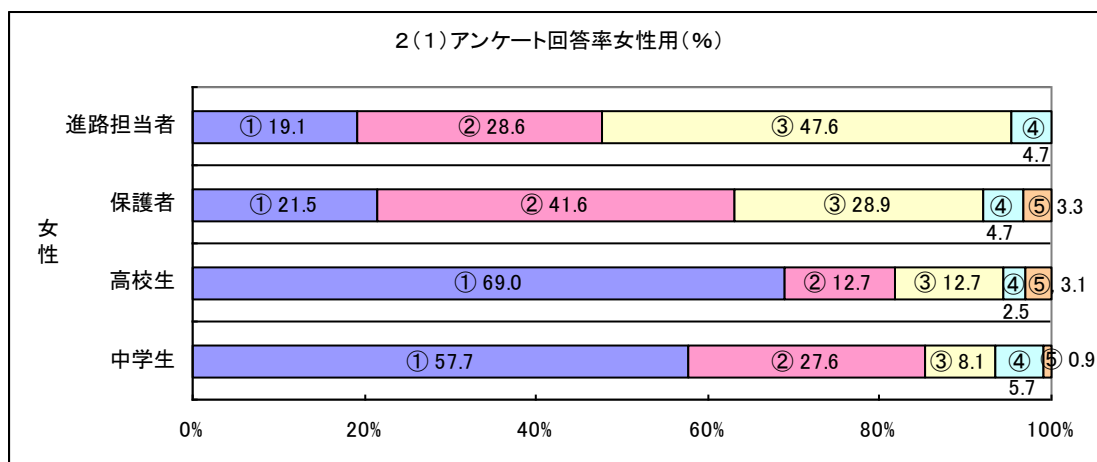
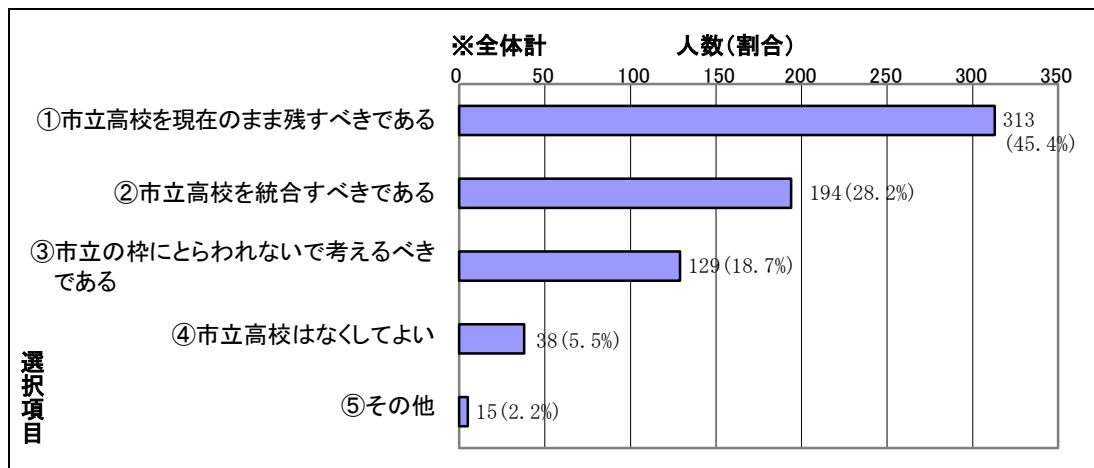
(2) 生徒の皆さんが魅力ある高校生活を送るために、どのような科があればよいと思いますか。1つ選んでください。(※生徒のみ回答)



○ 本問は、「生徒が魅力ある高校生活を送るためにどのような科があればよいか」を尋ねている。そのうち「①学びたい科目の選択ができる総合学科」と回答した者は全体の61.7%にのぼり、特に高い割合である。

2 生徒数の減少への対応についておたずねします。

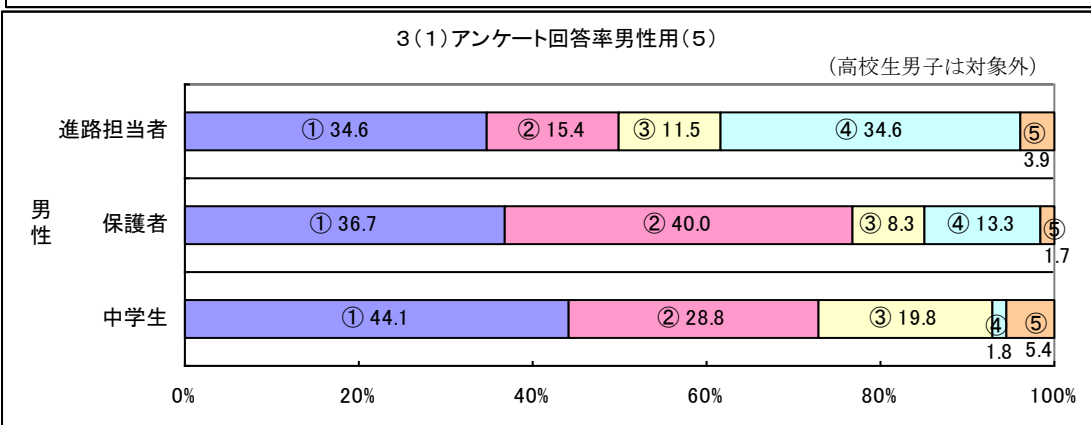
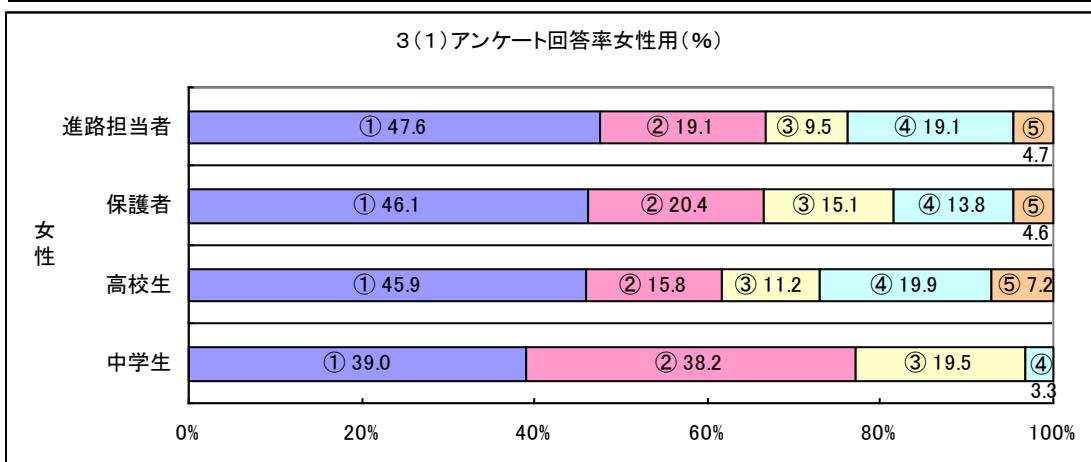
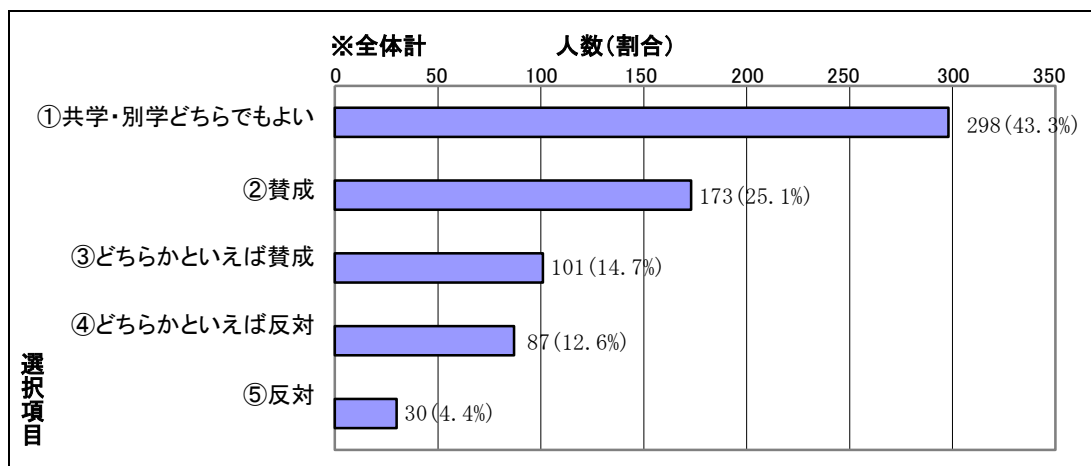
(1) これからの市立高校は、どうあればよいと思いますか。次の中から1つ選んでください。



○ 「①市立高校を現在のまま残すべきである」が45.4%である。次が、「②市立高校を統合すべきである」が28.2%で、併せて全体の7割を占めている。

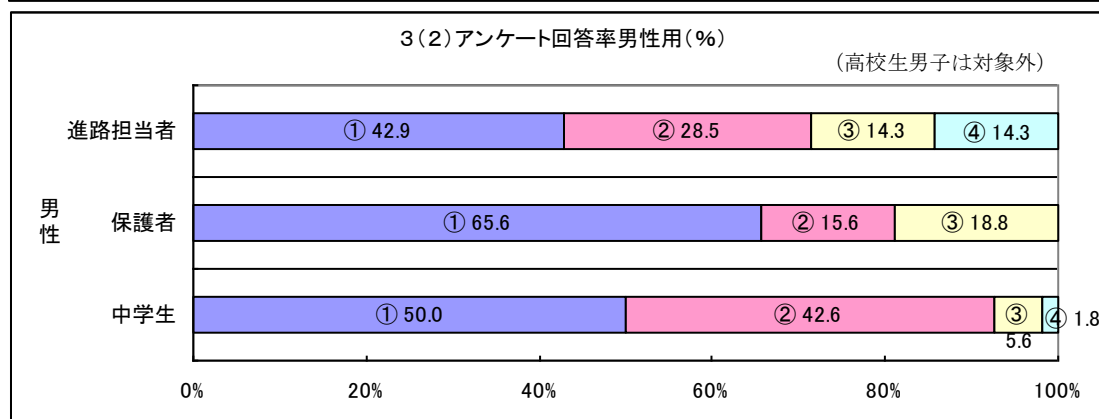
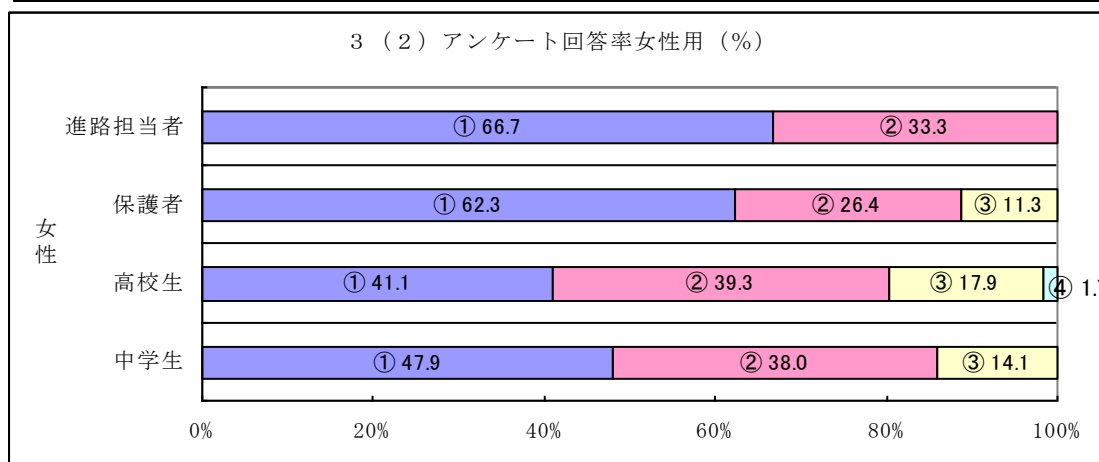
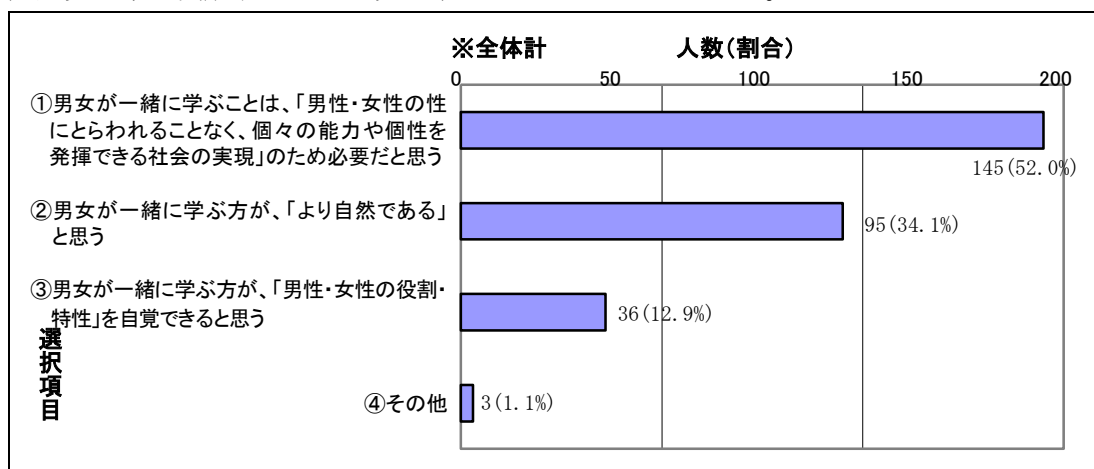
3 高校の男女共学化についてお聞きします。

(1) 男女共学化についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。



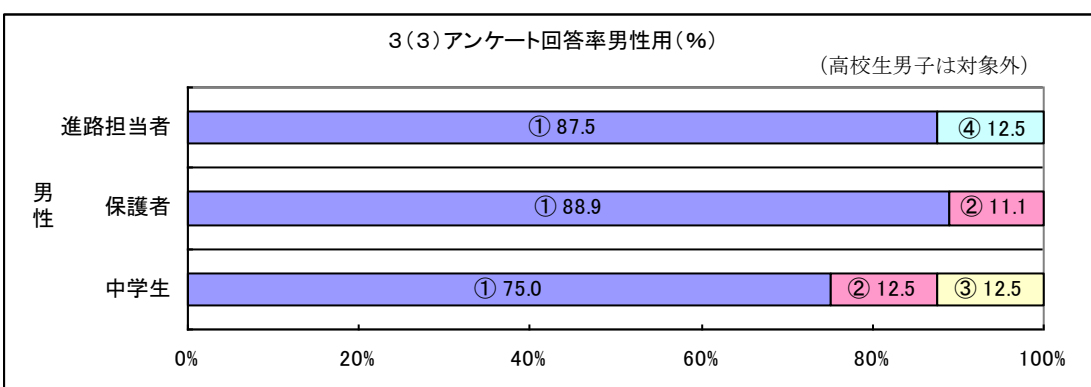
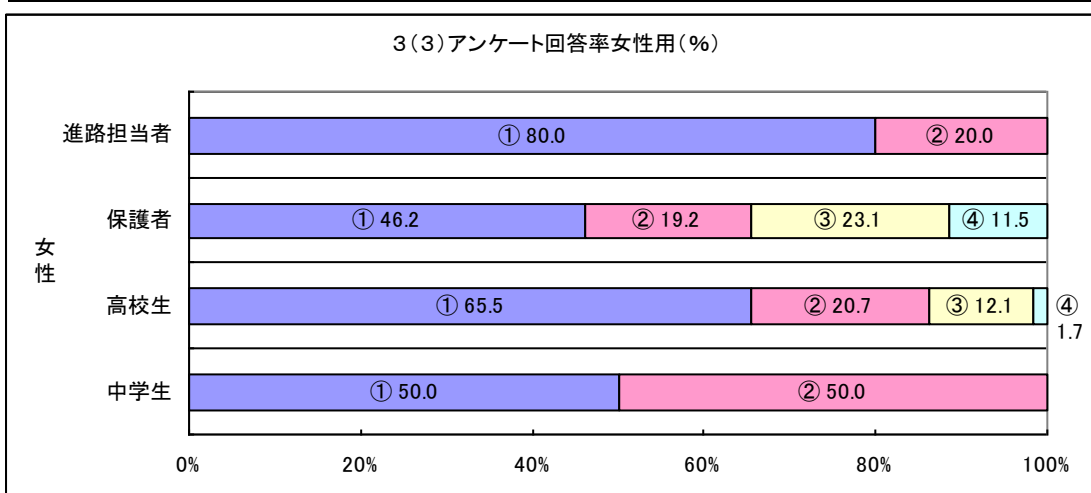
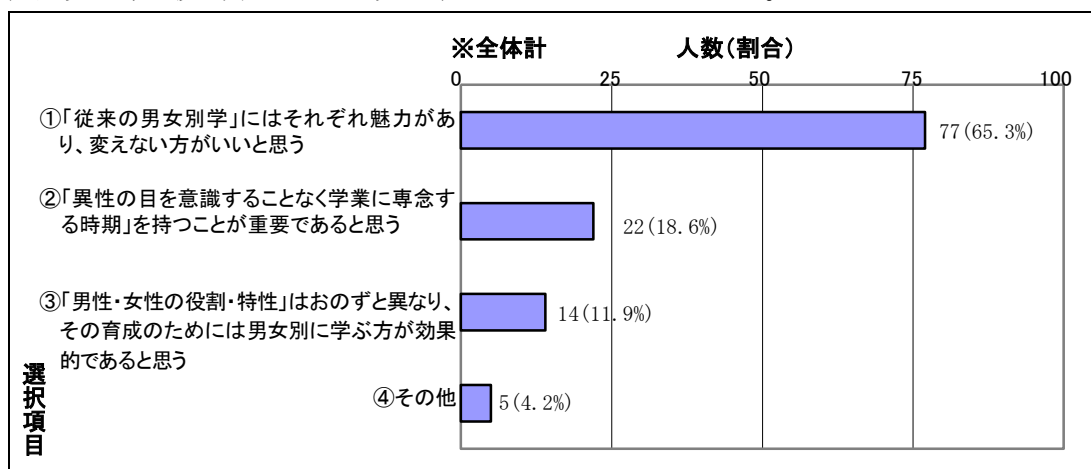
○ 「男女共学化についてどう思いますか」に対して、第1位が「①共学・別学どちらでもよい」が43.3%で、「②賛成」が、25.1%であり、「③どちらかといえば賛成」を併せると全体の8割が男女共学を肯定している。

(2) 男女共学に賛成する理由を次の中から1つ選んでください。



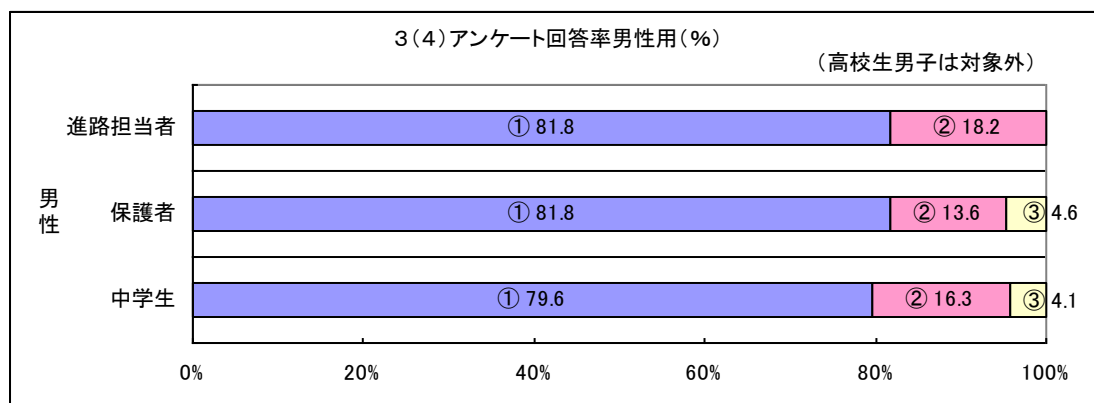
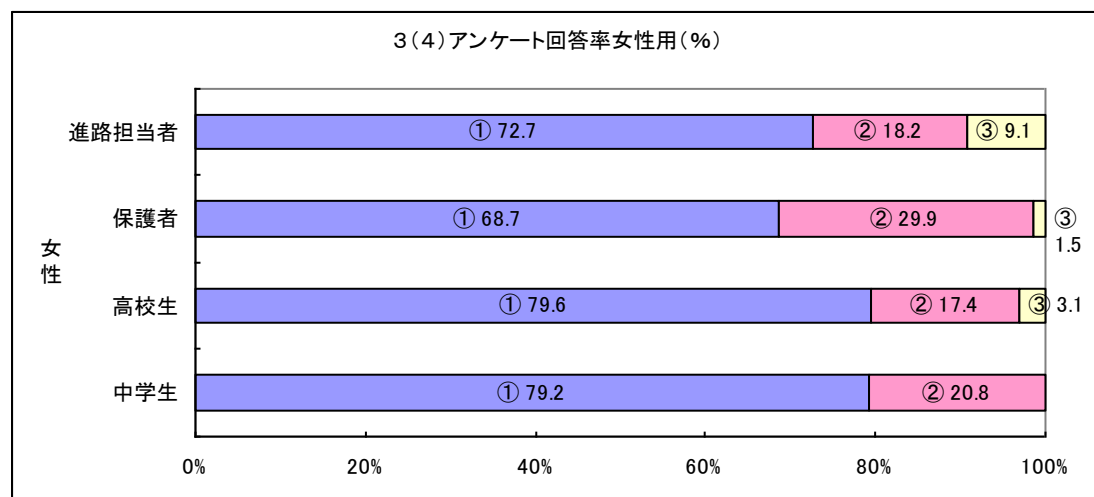
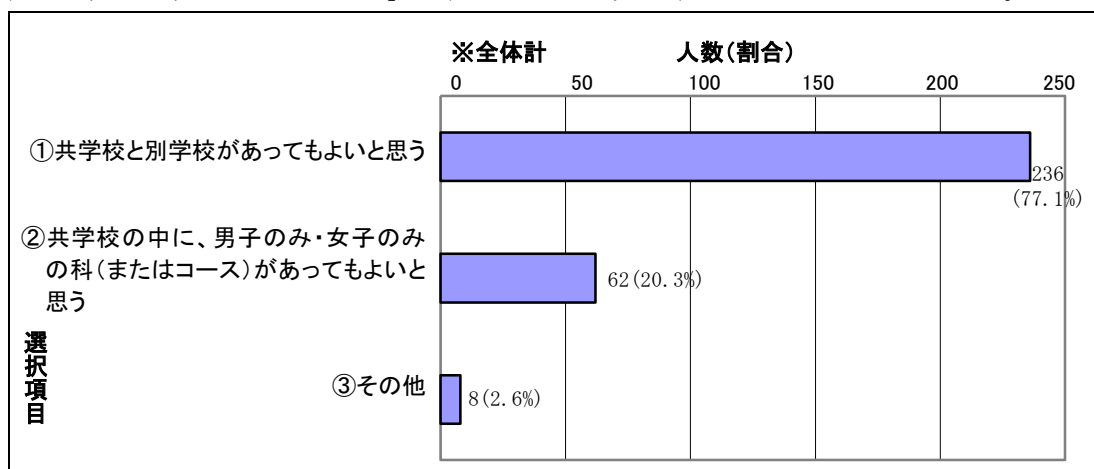
○ 男女共学に賛成する理由については、第1位が、「①男女が一緒に学ぶことは、「男性・女性の性にとらわれることなく、個々の能力や個性を發揮できる社会の実現」のために必要だと思う」が52.0%で、次が、「②男女が一緒に学ぶ方が、「より自然である」と思う」が34.1%で、併せて8割以上を占めている。

(3) 男女共学に反対する理由を次の中から1つ選んでください。



○ 男女共学に対する理由のうち、「①従来の男女別学にはそれぞれ魅力があり、変えない方がいい」と回答しているのが65.3%で最も高い。

(4) 「共学・別学どちらでもよい」と答えた理由を次の中から1つ選んでください。



○ 「共学・別学どちらでもよい」と答えた理由として、77.1%が「①共学校・別学校があってもよいと思う」と回答し、共学・別学の存在を肯定する理由を選択している。

2 市民意見聴取（パブリック・コメント）の結果

意見の内容
<p>策定委員の皆さん審議ご苦労様です。ほとんどの審議を傍聴し、皆さんの真摯な議論を拝聴させていただきました。</p> <p>今回審議の結果、市立二校を統合し、女子校として残すという案にまとまったことについて、大いに賛成したいと思います。その理由は次の三つです。</p> <p>1、委員からも出ていた意見ですが、県立高校がすべて共学となれば、県下で唯一の女子校であることは大きな特色となります。県全体が共学となる中で、石巻市だけが女子の市立高校を持ち、その伝統を守り発展させることは、意義のあることだと思います。</p> <p>2、両校の校庭は狭隘です。共学にした場合は市女・女子商のどちらのキャンパスを利用しても校地は狭く、男子を入学させるのには条件が悪すぎます。体育祭の開催は困難になり、野球部や男子のサッカー部は希望者がいても活動場所の確保が出来ないでしょう。男子にとって魅力ある学校にする為には、どうしてももっと広いキャンパスが必要です。現状を越えた広いキャンパスがなければ共学そのものが無理だと思います。</p> <p>しかし、市女・女子商の生徒達は現在のキャンパスでのびのび活動し、青春を謳歌しています。女子校ならこれからもキャンパスの狭さを越えた魅力を作り出していけるとと思います。</p> <p>3、女子校の方が女子のリーダーが育ちます。私体験から言えば、共学校のリーダーはどうしても男子中心になります。対して女子校は当然ながら女子のみで何でもやります。特に市女高の生徒会は、行事ごとに生徒達が自主的に役割分担し、綿密に計画を立て、自分達ですべてやっていました。教師は見守るのが役目でした。そういう活動の中からリーダーが育ちます。これからの男女共同参画社会では女子の積極性やリーダー性が必要だと思います。女子校はその訓練に最適の場です。</p> <p>石巻市教育委員会は石巻市民の声を背景に、石巻市独自の方針を貫いて欲しいと思います。</p>
意見に対する検討委員会の考え方
<p>この意見は、第一に、県下で唯一の女子校であることが大きな特色となること、第二に、両校のキャンパスが狭隘であるため共学化することに適さないこと、第三に、統合校を女子校とすることによって女子のリーダーを育てる教育の場となり得ることなどの理由を掲げており、市立高校の現状を十分配慮した賛成意見として受け止めさせていただきます。</p>